

ANNUAL REPORT

学校法人日本赤十字学園
令和7年度事業活動のご報告



日本赤十字社

学校法人
日本赤十字学園
Japanese Red Cross Academy



人道の理念に基づく 「赤十字看護」の 実践者を育むために

学校法人日本赤十字学園 理事長 富田博樹

日本赤十字社における看護師養成事業は、社の創立からわずか9年後の明治19年(1886年)、博愛社病院(現・日本赤十字社医療センター)の設立をもって本格的に開始された。

この背景には、日本赤十字社の前身の博愛社が、明治10年(1877年)の西南戦争において、敵味方の区別なく傷病兵を救護した経験を通じ、専門的な看護師の育成が不可欠であると痛感された事情がある。

当時、欧米諸国においては、クリミア戦争におけるフローレンス・ナイチンゲールの献身的活動により、戦地医療の質が飛躍的に向上した事例が広く知られており、看護師の専門性と必要性が強く認識されていた。これを受け、日本赤十字社は教育機関と病院を連携させた看護師養成体制を整備した。

戦前には、全国に34校の赤十字看護学校が設立され、高等女学校卒業以上を入学資格とする高い教育水準のもと、看護師の育成が進められた。赤十字看護師は社会からの厚い尊敬を集める存在となった。

戦後においては、昭和22年(1947年)、連合国軍総司令部(GHQ)の指導により、聖路加女子専門学校と赤十字女子専門学校が統合され、「東京看護教育模範学院」が設立された。ここにおいて米国式の看護教育制度が導入され、戦後日本における近代看護教育の礎が築かれ、多くの指導的人材が輩出された。

以後、赤十字看護学校は最大時には全国で40校を数え、140年にわたり延べ11万人以上の卒業生を送り出してきた。またナイチンゲール記章受章者は97名に達しており、日本赤十字社の看護教育が国内外で高く評価されていることを示している。

また、日本赤十字社は昭和61年(1986年)から平成21年(2009年)にかけて看護大学の設立を進め、令和2年(2020年)日本赤十字看護大学さいたま看護学部設立により、現在では、全国に6つの看護大学、7つの看護学部、6つの大学院、1つの短期大学、総学生数3,532名を擁する日本最大規模の看護・福祉系教育機関へと発展している。その中核を担う日本赤十字看護大学は、令和8年度(2026年度)に創立40周年を迎える。

これらの教育機関は、日本赤十字社の理念「人間のいのちと健康、尊厳を守る」を体現する実践者を育成することを使命とし、学校法人日本赤十字学園のもとで一体的に運営されている。

現在は、令和5年(2023年)に策定された『学校法人日本赤十字学園の2040年に向けたグランドデザイン』の実現のため第4次中期計画を推進中であり、総合経営会議をはじめ、全大学が参画する各種プロジェクト・委員会・部会において、学園全体の経営基盤の強化、赤十字病院との連携深化、学生確保に取り組んでいる。

加えて、日本赤十字社が2027年に創立150周年という大きな節目を迎えるにあたり、学園としても「創立150周年プロジェクト」と連携し、赤十字の歴史・理念・実践を次世代へ継承する取り組みを積極的に推進している。

また、附属研究施設である日本赤十字国際人道研究センター及び日本赤十字看護大学附属災害救護研究所においては、特色ある研究活動を展開し、教育・研究・実践の三本柱を一層強化している。

我々は、『人道の理念に基づく「赤十字看護」の実践者を育成する』という不変の使命のもと、赤十字精神に基づく「赤十字学」の体系化を目指している。

さらに、全国の赤十字病院・本社・支部等と緊密に連携し、『赤十字教育共同体』を形成しながら、赤十字看護の一層の深化と普及に尽力していく所存である。

日本赤十字社創立150周年という歴史的節目を迎えるにあたり、先人たちが築いてきた人道の精神を受け継ぎながら、次の時代を担う人材の育成と、教育・研究・実践のさらなる発展に邁進してまいりたい。

今後とも、引き続き格別のご支援とご指導を賜りたく、謹んでお願い申し上げます。



ミッションステートメント

赤十字看護大学の使命

赤十字の精神に基づき、人間のいのちと健康、尊厳を守るために、力を尽くす人材を育てます。

私たちの教育理念

日本赤十字学園の各(看護)大学は、建学の精神に基づき、これを具現化するため次のことを共通の教育理念として掲げ、教育に当たります。

- 赤十字に関する理解と共感を育むこと。
- 看護に関する基本的な知識、技術、態度を身につけること。
- 自ら学ぶ姿勢を重視した演習や実習を行うこと。
- ヒューマン・ケアリングの実践、教育、研究の領域において、リーダーシップを発揮する基礎的能力を涵養すること。
- ヒューマン・ケアリングを実践するために、豊かな人間性と幅広い教養を涵養すること。
- 保健、医療、福祉の幅広い分野で活躍できること。
- 高度専門医療に対応できること。
- 国際的な医療に対応できること。
- 赤十字の主要な活動である災害救護活動で活躍できること。
- 地域社会に開かれた大学としての活動を行うこと。



CONTENTS

日本赤十字学園の 看護大学・大学院・短期大学	02
---------------------------	----

2040年に向けたグランドデザイン 日本赤十字学園第四次中期計画	04
-------------------------------------	----

各大学・短期大学の動向

● 日本赤十字看護大学	05
● 日本赤十字北海道看護大学	08
● 日本赤十字東北看護大学 日本赤十字東北看護大学 介護福祉短期大学部	10
● 日本赤十字豊田看護大学	12
● 日本赤十字広島看護大学	14
● 日本赤十字九州国際看護大学	16

事業の概要

日本赤十字看護大学附属 災害救護研究所の動向	18
日本赤十字国際人道研究センター の動向	20
学生の動向	22
教育活動の動向	27
研究活動の動向	28
奨学金の受給状況	30

財務の概要

資金収支決算	32
事業活動収支決算	34
貸借対照表	36
財産目録	37

法人の概要

学園の沿革	38
学園の組織/教職員の概要	39
役員・評議員一覧/ 理事会・常務理事会・評議員会の 開催状況	40
各大学・短期大学の施設概要	41

得られる受験資格・取得資格



看護師



養護教諭
一種免許



保健師



介護
福祉士



助産師

日本赤十字 豊田看護大学

設置：平成16年（2004年）

～あなたの夢の実現が、
誰かを救う一歩になる～



	収容定員	入学定員
看護学部 看護学科	480	120
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	20	10
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2

日本赤十字 広島看護大学

設置：平成12年（2000年）

～“人道”の心で
人とつながる看護を学ぶ～



	収容定員	入学定員
看護学部 看護学科	500	125
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	20	10
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2

日本赤十字 九州国際看護大学

設置：平成13年（2001年）

～ひとりを見る目、その目を世界へ～



	収容定員	入学定員
看護学部 看護学科	400	100
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	20	10
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2

[各大学における専門看護師教育課程]

学校名	教育課程
日本赤十字北海道看護大学(大学院)	慢性看護、精神看護
日本赤十字東北看護大学(大学院)	がん看護、老年看護、精神看護
日本赤十字看護大学(大学院)	がん看護、小児看護、慢性看護、クリティカルケア看護、精神看護、老年看護、災害看護、在宅看護
日本赤十字豊田看護大学(大学院)	小児看護、老年看護、精神看護
日本赤十字広島看護大学(大学院)	がん看護、小児看護、精神看護、災害看護
日本赤十字九州国際看護大学(大学院)	クリティカルケア看護、在宅看護、精神看護、老年看護

日本赤十字 北海道看護大学

設置：平成11年（1999年）

～手渡しの看護を～



		収容定員	入学定員
看護学部 看護学科		400	100
看護学研究科 看護学専攻 修士課程		32	16
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程		6	2

日本赤十字 東北看護大学・ 同大学介護福祉短期大学部

設置：平成21年（2009年）

～「生きる」を支える人になる～



		収容定員	入学定員
看護学部 看護学科		400	100
看護学研究科 看護学専攻 修士課程		24	12
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程		6	2
短期大学 介護福祉学科		60	30

日本赤十字 看護大学

設置：昭和61年（1986年）

～Vision for Humanity
-人道の実現に向けて～



		収容定員	入学定員
看護学部 看護学科		540 (3年次編入学 10)	130
さいたま看護学部 看護学科		320	80
看護学研究科 看護学専攻 修士課程		64	32
看護学研究科 国際保健助産学専攻 修士課程		30	15
看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程		30	10



大宮キャンパス

[各大学における認定看護管理者コース]

学校名	教育課程
日本赤十字看護大学(大学院)	看護管理学領域
日本赤十字豊田看護大学(大学院)	看護管理学領域
日本赤十字広島看護大学(大学院)	教育・研究者コース



日本赤十字学園の2040年に向けたグランドデザイン

日本赤十字学園は、2040年の社会構造を見据えた長期的かつ積極的なビジョンとして、「学校法人日本赤十字学園の2040年に向けたグランドデザイン」を令和5年12月に策定しました。

1 学園の協働プロジェクトとして目指す目標

- (1) 各大学の経営分析等による安定した組織運営
- (2) 赤十字の看護や救護等を探求する「赤十字学」の構築
- (3) 大学を越えた新たな研究の仕組みの構築と看護学研究の推進
- (4) 赤十字看護大学間の国際交流の展開
- (5) 赤十字の特色を生かした入試制度の構築

2 各大学が教育共同体として目指す目標

- (1) 赤十字大学が積み上げてきた実践知を基盤とした教育の新たなシステムの構築
- (2) 赤十字病院との連携を推進することによる6大学の看護教育力のさらなる飛躍
- (3) DX推進による共同で利用可能な教育環境の整備
- (4) SDGsのゴールを目指した取り組みの推進

3 個々の大学が特色を出して目指す目標

各大学は、機関別認証評価の評価基準を踏まえつつ、赤十字看護大学としての独自色を出し強めていくため、共通の10の目標を設定しました。

日本赤十字学園第四次中期計画(令和6年度～10年度)の策定について

学園のグランドデザインの各目標の達成に向けて、令和6年度から5年ごとの期間の中期計画を策定し、学園全体が一体となって実行していきます。

また、第四次中期計画期間(令和6年度～10年度)は、各目標を達成するための基盤作りの重要な期間として位置付けています。

1 学園の協働プロジェクトとして目指す計画

- (1) 総合経営会議を設置し、各大学の経営状況の把握・改善を検討し、組織運営を行う。
- (2) 日本赤十字社創設からの看護・救護等活動の実績・経験を検証し、体系化する。
- (3) 赤十字6大学が共同し、研究を実践・教育に活用するための新たな仕組みを構築する。
- (4) 海外の赤十字看護系大学との交換留学・研修・共同研究等の交流を広く展開する。
- (5) 赤十字6看護大学連携併願選抜等入試制度を検証し、必要な改善等を行う。

2 各大学が教育共同体として目指す計画

- (1) 赤十字6大学が相互に利用できる教育システムの開発及び大学間の人材交流を行う。
- (2) 赤十字の教育共同体を通して基礎から切れ目のない生涯教育プログラムを開発する。
- (3) 学園全体の教育DX推進計画を策定し、共同で利用可能な教育環境基盤を整備する。
- (4) SDGsのゴールを目指した赤十字6大学共同の取り組みを推進する。

3 個々の大学が特色を出して目指す計画

各大学を取り巻く環境は少しずつ異なりますが、共通の計画を掲げました。

グランドデザイン、第四次中期計画の全文についてはこちらをご覧ください。





広尾キャンパス



大宮キャンパス

Vision for Humanity－人道の実現に向けて

日本赤十字看護大学

設置学部等 看護学部／さいたま看護学部／大学院

(広尾キャンパス) 電話 03-3409-0875

住所 東京都渋谷区広尾4-1-3

(大宮キャンパス) 電話 048-799-2747

住所 埼玉県さいたま市中央区上落合8-7-19



学長

守田 美奈子

看護学部では、新カリキュラムによる1年次の看護学導入実習が2回目の実施を迎え、2年次以降の講義、演習、実習のパッケージ化を狙った新カリキュラムも開始しました。文部科学省から看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改定版)が公表され、赤十字学園6大学と連携し、当カリキュラムの検証やシラバスの見直し等、教育向上に向けた活動を精力的に行いました。看護学研究科では、研究・実践能力の獲得に向けた新カリキュラムの運営を開始しています。入試制度改革としては、学部で総合型選抜を開始し、多くの方に受験いただきました。さらに、赤十字医療福祉機関に所属する看護職を対象とした修士課程の赤十字特別選考や、博士課程における修了生特別選考等の入試方法の検討を行っています。また、学生支援として、赤十字病院との就職推薦制度を始めたところです。令和8年には、大学開学40周年を迎えます。新たな改革に取り組み、一層の発展を目指していきたいと考えています。

DX推進計画の策定及び教室のICT環境整備

DX推進プロジェクトが設置され、DX(デジタルトランスフォーメーション)を通じて、次世代を担う看護人材の育成と社会的課題の解決に貢献することを目指し、『日本赤十字看護大学DX推進計画』を定めました。また、広尾キャンパスの201講義室および211講義室、大宮キャンパスの201講義室およびSALAに固定カメラを設置し、映像・音響機能の向上、操作の簡素化、ICT利活用の環境整備を実現しました。



広尾キャンパス201講義室

修士論文・課題研究発表会優秀賞の表彰

修士論文発表会・課題研究発表会において、優れた研究成果を発表した大学院生を奨励・表彰し、本学研究科での研究活動教育活動の活性化と学生の意欲向上の一助とすることを目的として、令和7年度より「修士論文・課題研究発表会優秀賞」を設けました。



表彰の様子(令和7年度学位授与式)

看護学導入実習I

看護学部では新カリキュラム2年目を迎えました。本科目はこの新カリキュラムにおける大きな特徴であり、1年次の5月中旬に実施します。地域の多様な世代や健康状態にある人々の暮らし、健康に関連する身近な問題、地域の人々を支える様々な活動の実際を理解することを目的に、日本赤十字社関連施設や幼保一元施設、地域包括支援センター等で実習を行いました。学生の満足度も高く、実習指導者からも高い評価を得ています。

看護学導入実習I（埼玉県支部）



日本赤十字社総合福祉センターでのひな祭りコンサート

3月5日、室内楽アンサンブル部IKANは、日本赤十字社総合福祉センターにて、第3回ひな祭りコンサートを開催しました。クラシックからポップスまで幅広いジャンルの全8曲を披露し、最後の『上を向いて歩こう』では、入居者と部員がともに歌い、会場は和やかな雰囲気になりました。IKANは、慶應義塾大学医学部管弦楽団と合同で活動しており、定期演奏会や院内コンサートなど幅広く活動しています。

入居者の方々の前で演奏しました

高大連携校である実践女子学園中学校高等学校での模擬授業の実施

11月14日、実践女子学園中学校高等学校との高大連携協定締結後、初となる模擬授業を行いました。実践女子学園が主催する複数の大学を招聘したもので、本学の模擬授業には高校2年生が参加しました。安部陽子教授による「看護関係法規」に関する授業が行われ、終了後には参加者より入試や大学に関する質問が寄せられました。今後も、進学・キャリア構築を支援する連携事業の強化を図っていきます。



模擬授業の様子



S-SAP（シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー）協定に基づく活動

令和7年度より、本学と渋谷区及び日本赤十字社医療センターはS-SAP協定を締結し、連携事業を開始しました。1.次世代育成に関する支援、2.生涯学習に関する支援、3.福祉に関する支援、4.健康・医療に関する支援、5.災害対策に関する支援、6.地域振興に関する支援、7.その他相互に連携することが必要と認められる支援等を通じて、地域の社会的課題の解決に協働して取り組んでいます。

渋谷区保健所との共催「誰でも学べる地域セミナー」

大学院

フィンランド・タンペレ大学との国際研修会の開催

12月4日、本学の国際保健助産学専攻主催でフィンランド・タンペレ大学（TAMK）との国際研修会がハイブリッド形式で開催されました。双方の大学院生が多数参加し、両国のケア専門職教育や共感を促すストーリーテリング手法に関する講義と実践ワークを行いました。さらにグループ討論では、母親の相互作用や信頼構築、倫理的課題、予防的支援、多職種連携の可能性について熱心な議論が交わされました。

実践ワークの様子



大宮キャンパス

コミュニティ演習発表会

さいたま看護学部では、地域に根差した看護を担うことができる看護職の育成のため、「コミュニティ演習」において4～5名程度のグループに分かれ、地域において住民の方が健康を守るために行っている活動の現状を学びます。実際に活動中のコミュニティグループを訪問し、活動内容や運営の課題などを調査の上、報告会を行いました。報告会では、自身の振り返りだけでなく他者の視点から学ぶことで、看護職の機能や役割の理解を深めています。

コミュニティケア演習発表



「学生政策提案フォーラムinさいたま」で本学学生が発表

「大学コンソーシアムさいたま」加盟大学の学生が、専門分野を生かして市の政策・事業について提案する「学生政策提案フォーラムinさいたま」が11月16日に開催され、7大学10チームが参加しました。本学からは藤川ゼミ(地域看護学)の学生2名が「誰もが自分らしく暮らせる地域共生社会の実現」をテーマに発表し、審査員や来場者から一定の手応えを得ることができました。提案の実現に向け、引き続き活動しています。

地域の方を巻き込んだ「育てるマップ」プロジェクトを提案



UR都市機構との連携イベントの実施

UR都市機構と本学は、団地住民の健康づくりを目的に令和3年度より連携しています。今年度は8月19日に南浦和団地で講座を開催し、19名が参加しました。第1部では、高齢者の低栄養や脳梗塞予防について本学教員と外部講師による講話を実施しました。第2部では、学生が中心となって災害時の健康被害予防やふるしき活用法を紹介し、防災ビンゴを行いました。参加者の満足度は高く、リピーターも増えています。

ふるしきを使った運搬用のバックを実際にご紹介



武蔵越生高校生による大学訪問

本学では近隣高校からの要望に応じて、模擬授業や施設見学を実施しています。8月22日には埼玉県入間郡の武蔵越生高校2・3年生11名を受け入れました。高校では認定看護師への道を意識した進路指導にも取り組んでおり、資格を有する本学教員から経験に基づいた説明を行いました。ベッドメイキング体験では、「患者への配慮の大切さを理解できた」「細部まで意識した赤十字の技術を学べた」といった気づきを得る機会となりました。

技術体験では本学在学学生(対象校の卒業生)もサポート

大学院

国際保健助産学専攻 地域母子保健Ⅱプロジェクト学習

地域母子保健Ⅱの学習の一環として、大学院国際保健助産学専攻の学生5名が秋田県大館市でフィールドワークを行いました。地域全体で妊娠・出産・育児を支える「おおだてまちごと家族プロジェクト」を考案し、大館市をはじめ、地域で子育て支援に携わる方々に好評をいただき、地元新聞にも取り上げられました。

北鹿新聞(秋田)に取り上げていただきました



日本赤十字北海道看護大学

設置学部等 看護学部／大学院

電話 0157-66-3311

住所 北海道北見市曙町664-1



学長

安酸 史子

令和7年度は学生確保を最重要課題に位置づけ、総合型選抜の導入、全道高校訪問、北見市内4校との高大連携、オープンキャンパスの充実、合格者の集いの実施、広報室の設置等を、全教職員が一体となって進めました。その結果、受験者数は減少したものの令和8年度の入学者は83名と前年より15名増加しました。令和9年度は定員を80名へ見直し、志願者の裾野拡大と入学後の学修支援の両面から、安定的な学生確保を目指します。また、出前公開講座(22件、632人受講)や学校連携出前講座(11校13件、779人受講)、こども仕事体験フェスタin北見、北見ぼんちまつりこども縁日、北見市健康まつり、赤十字フェスタ2025in北見などの地域イベントへの参加を通じて、地元への社会貢献にも継続して参りました。厳冬期災害演習には全国から124名の防災担当者、災害保健医療福祉従事者が集まり、本学ならではの取り組みとして定着してきました。

今後も赤十字看護を確実に教える使命のもと、教育力の向上とケアリング文化の醸成、研究者意識や帰属意識の育成に教職員一丸となって推進して参ります。

厳冬期災害演習2026

1月17日から18日にかけて、厳冬期避難所展開・宿泊演習2026を開催しました。全国から124名の防災担当者等が参加し、厳冬期の避難所環境を実践的に体験しました。本学学生も災害専門職能の方々と協働し、実践的な学びを深めました。本演習は様々なメディアにも取り上げられ、厳冬期災害対策に関する社会的関心の高さを示す機会となりました。また、関係機関との連携強化にも繋がりました。



スチールベッドの上にソロテントを載せプライバシー空間と温かい空間を提供

日本赤十字社 清家社長 特別講演会

赤十字の理念及び活動への理解深化を目的として、11月8日に日本赤十字社社長 清家篤氏を招聘し、「未来を拓く赤十字の人道支援」をテーマとする特別講演会を開催しました。講演では、「苦しんでいる人を救いたい」という赤十字の基本理念や、少子高齢化を背景とした社会課題、創立150周年に向けた取り組み等について説明がありました。本講演会は、赤十字の使命及び社会的役割への理解を深める機会となりました。



本学学生や教職員に加え、一般市民の方々にも多くご参加いただきました

内部質保証体制の機能強化

本学においては、各委員会間の連携及び情報共有体制を一層強化し、PDCAサイクルに基づく内部質保証活動の更なる高度化を推進しました。各委員会における活動実績及び課題を継続的に分析・検証し、その結果を教育活動及び組織運営へ効果的に反映させることで、改善の実効性向上に努めました。併せて、組織横断的な協働体制の充実を図り、内部質保証体制の機能強化及び教育の質向上を推進しました。

入試制度改革による入学生確保の推進

安定的な入学生確保を目的として、入試制度の見直しを致しました。総合型選抜の導入・拡充を図るとともに、受験機会の拡大を目的として入試実施回数を増加させ、多様な志願者層の確保に努めました。その結果、総合型選抜による入学者数は25名となり、募集定員を上回る成果を得ました。また、入試制度の多様化を通じて、本学の特色や教育理念に適合する学生の確保にもつながり、安定的な学生確保に向けた取り組みを推進しました。

広報体制の充実

安定的な入学生確保を目的として、広報体制を強化致しました。広報機能の一層の充実を図るため、新たに広報室を設置し、組織的かつ戦略的な情報発信体制を整備しました。あわせて、従来の広報媒体に加え、新たな媒体の活用を推進することで、本学の教育内容や特色を効果的に発信しました。これらの施策を通じて、本学の認知度向上及び志願者層の拡大に向けた基盤整備を推進しました。



テレビやラジオへの広報に加え、人通りの多い札幌駅地下に広告を掲出

ソフトバンク株式会社との産学連携プロジェクトの推進

9月30日に開催されたソフトバンク株式会社との産学連携プロジェクト記者発表において、人型ロボット「Pepper」及び生成AIを活用した教育・研究活動について発表しました。プログラミング教育や対話型支援の実践を通じ、学生のICT活用能力及び実践力の向上を図るとともに、地域の介護・福祉分野との連携による地域貢献活動及び教育DXの推進に取り組みました。

調印式後には、記者発表も行い北海道新聞より取材を受けました



北見青年会議所とのパートナーシップ宣言締結

地域連携の推進を目的として、公益社団法人北見青年会議所とパートナーシップ宣言を締結しました。本宣言に基づき、双方が実施する地域事業への相互協力及び情報共有を行うとともに、各種イベントへの共同出店等を通じて地域交流の活性化を図りました。また、災害時における協力体制についても確認し、平常時・災害時の双方における地域連携体制の強化及び地域貢献活動の充実に努めました。



北見青年会議所との締結式

合格者イベントの開催

令和8年度入学予定者を対象に、「あつまれ未来の看護師たち#未来のキャンパスへ～合格者説明会～」及び「入学前の不安を解消!～先輩が答える入学前交流会～」を開催しました。大学概要説明やキャンパスツアー、在学生との座談会を通じ、入学前の不安軽減と学生生活への理解促進を図りました。いずれも令和7年度初の試みとして実施し、参加者から好評を得るなど、入学前支援の充実に繋がりました。



入学予定者とそのご家族皆さまが参加されました

「生きる」を支える人になる

日本赤十字東北看護大学 日本赤十字東北看護大学 介護福祉短期大学部

設置学部等 (大学)看護学部／大学院 (短期大学)介護福祉学科

電話 018-829-4000 住所 秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3



学長
原 玲子

本学は東北で唯一の赤十字の看護大学であることを明確に示すために、令和7年度から大学の名称を「日本赤十字東北看護大学」「日本赤十字東北看護大学介護福祉短期大学部」へと変更しました。

令和7年度は、日本赤十字六看護大学学生交流会を本学を会場に開催しました。北海道から九州までの赤十字看護大学の学生たちが「自然災害と地域支援～秋田県の大雨被害と私たちにできること～」をテーマに集い交流を深めました。

また、学生が地域の皆さんと交流するおしゃべりサロン「日赤でかだろ」を開催しました。これは老年看護学実習の一部として行っているもので、高齢者の生活理解や健康情報の提供等、学生の学びにつなげています。

さらに、本学を会場に「赤十字キッズタウン」が開催されました。今年で11回目の開催で、幼稚園から小学生の子どもたち149名が、災害救護、看護師、献血業務等の仕事体験を通して、赤十字の理念等を学びました。若者の看護志向が減少する中、赤十字の看護師を目指すことにつながればと願っています。

「秋田」から「東北」へ ～大学名称の変更～

本学は東北で唯一の赤十字の看護大学であることを明確に示すため4月に「日本赤十字東北看護大学」「日本赤十字東北看護大学介護福祉短期大学部」と名称を変更し、新たな一歩を踏み出しました。教職員が見守る中、正面玄関前で名称掲示の除幕式が執り行われ、本学は新名称とともに新たな歴史を歩み始めました。



新名称として、新たな一歩



看護師、医師体験をしている子どもたちの様子

「赤十字キッズタウン」の開催

本学を会場に「赤十字キッズタウン」が開催されました。今回で11回目となるこのイベントは、幼稚園から小学生までの子どもたちが赤十字職員になりきり、災害救護や医師・看護師、献血業務、保育士などのお仕事を体験することで、赤十字の理念や活動を親子で学ぶ体験型プログラムです。午前・午後の二部制で行われ、合わせて149名の子どもたちが参加しました。

「第15回日本赤十字六看護大学学生交流会」の開催

日本赤十字六看護大学学生交流会が本学を会場とし開催されました。全国の各赤十字看護大学の学生たちが、「自然災害と地域支援」をテーマに集い交流を深めました。初日は自己紹介やゲームを通じて親睦を深めた後、災害被害の様子や支援の現場理解、支援方法についての講話を受講。夕方にはバーベキューを楽しみました。2日目は文化体験や施設見学、地元食材を使った食事を満喫するなど、終始にぎやかで華やかな交流会となりました。

学生同士がグループワークを通じて交流を深めました



「SCSKのふるさと納税」による寄付募集の開始

「SCSKのふるさと納税」は、教育機関を応援することを目的とした新しいふるさと納税の仕組みです。秋田市では、10月よりこの制度を導入し、市内の高等教育機関への寄付を通じた支援活動を展開しており、地域の教育力を高め、若者の地元定着や人材育成を促進することに役立てられています。この仕組みを通じた本学への寄付窓口が開設され、より多くの方に本学の教育・研究活動をご支援いただけるようになりました。

秋田市役所で合同記者会見が行われました



秋田令和高等学校との高大連携協定式

本学介護福祉学科は秋田令和高等学校（秋田県秋田市）と高大連携協定を締結しました。今後は高校生の大学授業への参加、高校への出張講義、両校教員の情報交換を通じ、介護福祉人材の育成と地域貢献を進めます。地域の介護・福祉に貢献したい生徒が、将来この分野で活躍する人材へ成長し、地元へ貢献する喜びを感じてもらえることを期待しています。

高大連携協定式の様子



「赤十字マイスター」の認定

赤十字マイスター認定制度が創設され、2年目を迎えました。この制度は赤十字の基本原則と行動規範を理解し、国内外で赤十字活動の普及・実践に努め、赤十字に貢献する人材を育てることを目的としています。卒業生では、赤十字関連科目の学習及び赤十字関連活動など一定の条件をクリアした看護学部の学生11名が認定され、学位記授与式で学長から認定書と記念品が贈呈されました。



「赤十字マイスター」に認定された学生たち(11名)

学生と地域がつながる健康づくりのひととき「日赤でかだろ」を開催

老年看護学実習の一環として、地域の方々が気軽に立ち寄ることができるおしゃべりサロン「日赤でかだろ」を開催しました(5回実施)。学生が中心となって血圧測



定や握力測定、健康体操を行うほか、本学教員によるミニ講話を実施。地域に開かれたこの取り組みは、健康づくりや人と人とのつながりを大切にする温かなイベントとして定着しています。

健康体操を行っている様子

あなたの夢の実現が、誰かを救う一歩になる

日本赤十字豊田看護大学

設置学部等 看護学部／大学院

電話 0565-36-5111

住所 愛知県豊田市白山町七曲12-33



学長

百瀬 由美子

18歳人口が減少し、看護学に関心をもつ若者が減少傾向にある中で、魅力ある大学として広く認知されるよう、令和9年度入学生から適用する新カリキュラムの検討を行いました。具体的には、赤十字関連科目の時間数を増やし、低学年から赤十字看護の実践に触れる機会として、中部ブロック各県の赤十字病院のご支援、ご協力のもと、ブロック内の複数の病院で行う「Red Cross Hospital 実習」を新設することを決定しました。また、多様化・複雑化が進む医療現場において多職種連携の必要性が高まることに対応する実習や災害看護学及び国際救援に関する科目の充実も検討しました。講義・演習及び実習にとどまらず、課外活動なども積極的に参加できるよう講義・実習時間や配置も工夫し、自ら考え行動できる力が醸成されることを意図しました。これらの学びの機会を多くの学生に提供できるよう、志願者拡大の戦略も検討し、新たに総合型入学者選抜試験を導入することを決定し、着実に準備を進めました。今後も赤十字の理念を継承できる人材育成を目指します。

スウェーデン赤十字大学とMOU締結

11月6日、本学において調印式が行われ、スウェーデン赤十字大学との間で、学術交流や学生交流を深めることを目的とした国際交流協定（MOU：Memorandum of Understanding）を締結しました。スウェーデン赤十字大学から副学長スザンネ・ヨルグソン教授をはじめとする代表団3名が来学し、署名後に記念撮影を行いました。今後は、両大学の発展に向けてさらなる交流を進めていきます。



MOU締結の様子



タイ赤十字看護大学教職員訪問団が来訪

7月22日、タイ赤十字看護大学の教職員17名が本学を訪問し、教育・研究分野での交流を深めました。学生によるキャンパスツアーでは、本学の学びや施設を紹介しながら交流を図りました。午後には、両大学がそれぞれの教育・研究活動について発表と意見交換を行い、今後の共同教育・研究の推進に向けて連携を一層深める貴重な機会となりました。

タイ赤十字看護大学教職員訪問団来訪の様子

石川県輪島市でボランティア活動を実施

4月19日、本学の学生2名と教員3名が、能登半島地震で大きな被害を受けた石川県輪島市の仮設住宅でボランティア活動を行いました。

日本赤十字社石川県支部では、被災地の復旧・復興に向けた支援活動を行っており、今回はその活動の一環で派遣されました。仮設住宅の集会場にて、鯉のぼり作りと水に浮かべるイラスト作り、血圧測定と健康相談、お茶会を行い、集まった住民の方々は賑わいながら楽しんで参加していただきました。

仮設住宅の集会場でのボランティア活動の様子



愛・地球博20祭「地球を愛する学園祭」に出展

8月29日から31日に開催した、愛・地球博20祭「地球を愛する学園祭」に学生たちが出展し、主体となって企画・運営に取り組みました。

ブースでは、日本赤十字社の歴史や活動について紹介したほか、「ハートラちゃん」のシールを使ったオリジナルの缶バッジの作成を行いました。また、健康診断ブースでは、血圧測定やロコモ度チェックなどを体験していただき、楽しみながら健康について学んでいただく機会となりました。

赤十字活動の紹介の様子

スローアートセンターナゴヤで「ヒューマンライブラリー」を開催

岡山大学の秋田美帆先生を講師に迎え、ヒューマンライブラリーの目的や意義について学びました。ヒューマンライブラリーは、語り手の経験を「本」として読み、対話を通して理解を深める学習方法であり、参加者は、直接質問したり意見を共有したりしながら深い学びを得ていました。参加者の多くが「学び」「前向きな感情」「深い気づき」を得たことが示され、本企画が自己理解・他者理解の促進に寄与したことがうかがえました。

ヒューマンライブラリーの様子

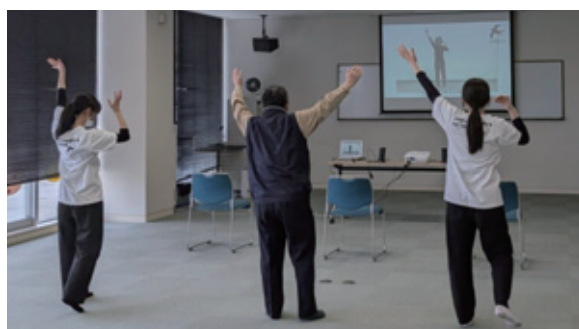


誤嚥の予防「つばめ教室」の実施

食べたり飲み込んだりする機能が低下する摂食嚥下障害を予防する「つばめ教室」を2月24日、尾張旭市保健福祉センターにて実施しました。

年齢階層別摂食嚥下障害リスク評価、認定看護師による3種類のスクリーニングテスト、生活指導の流れで評価を行いました。

希望者にはつばめ体操もご体験いただき、健康づくりへ意欲を高めました。



つばめ体操の様子

ふるさと納税を利用した本学への支援

豊田市のふるさと納税を通じて本学へご支援いただくことが可能になりました。

優秀な看護師を育成するため、以下の3項目における教育の質をさらに向上させることを目指し、寄付を募りました。

1. 国際的な支援活動や看護についての学びを深める実習での活用
2. 語学研修や国際感覚を養うための国際交流での活用
3. 近年の物価高騰による実習費高騰対策の財源として活用



ふるさと納税の案内ポスター

“人道”の心で人とつながる看護を学ぶ

日本赤十字広島看護大学

設置学部等 看護学部／大学院

電話 0829-20-2800

住所

広島県廿日市市阿品台東1-2



学長

田村 由美

大学を取り巻く状況が厳しさを増す中、本学は赤十字の中国・四国地域における拠点大学として、学園全体の改革とともに着実に前進を続けています。

学生確保の戦略として、学生サークル「ピーあーる LABO」による新たな視点からのSNS発信を加えた広報活動の強化や、選抜試験に「総合型」を導入しました。また、赤十字病院所属看護師の大学院進学促進のための新たな制度を策定し、中四国管内の赤十字病院を直接訪問して理解と協力をお願いしました。

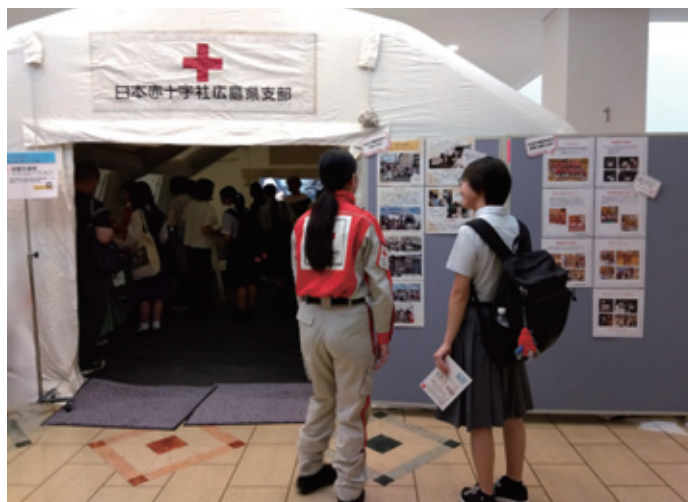
教育DX推進の一環として、実習記録のICT化を進めるためクラウド型の実習支援システムを導入しました。地域貢献では、小学校での防災教育や「命の授業」が定着しつつあり、地域課題解決に資する看護師のリカレント教育プログラム開設準備も進行中です。大学運営では、ガバナンス・コードに基づきBCPを策定し、危機管理体制を確立しました。

今後も改革を続け、地域に根差した開かれた大学として、地域社会との連携を一層深め、多様な人々が集い、学び、交流するプラットフォームとなることで、その存在価値を高めて参ります。

本学らしさを伝えるオープンキャンパス

令和7年度は、5月・8月・3月に計4回のオープンキャンパスを開催し、延べ900名を超える来場者を迎えました。8月のオープンキャンパスでは昨年度までと異なり、事前予約による人数制限をしない形式で開催し、避難所運営シミュレーションなど赤十字の特色を活かした体験型Missionを実施しました。参加者からは、教職員や学生の親しみやすさを評価する声が多く寄せられ、学生たちの姿をとおして、本学の魅力を伝える機会となりました。

避難所運営シミュレーションエアテント



学校親時計の更新

施設設備の老朽化対応及び安定的な時刻管理を目的として、パネル型8回路親時計の更新を実施しました。従来設備は経年劣化により時刻のずれが生じる可能性があったことから、正確性及び安定性の向上を図りました。これにより、講義、試験、入学者選抜等における適切な時刻管理体制を整備し、円滑な運営及び利用環境の向上につながりました。

学校のすべての時間を管理する『学校親時計』



講義室ワイヤレスマイクの更新

講義環境の質向上を目的として、講義室に設置している視聴覚設備のうち、ワイヤレスマイク設備の更新を実施しました。従来機器は経年劣化により音声品質や接続安定性に課題が見られていたことから、授業運営への影響を未然に防ぐため計画的に更新を行いました。更新後は、講義時における音声伝達の安定化及び聞き取りやすさの向上が図られ、教員・学生双方にとって、より円滑な教育環境の整備につながりました。

ワイヤレスマイクを手に講義を行う教授

特別講演会（国際交流セミナー）の開催

11月21日、22日の2日間に渡り、日本赤十字看護6大学共同主催として本学にて開催しました。講師にイギリスからクリストファー・ジョーンズ氏を招いて、1日目は学生向け、2日目は臨床看護師向けに「リフレクション」をテーマにご講演いただきました。参加者からは「自己の行動や思考を客観的に振り返る方法を理解でき、実習に役立てることができた」「単に振り返るのではなく、どうになりたいかという目的を持ってリフレクションを行うことの大切さを学べた」という声が寄せられました。



特別講演の様子

高大連携合同FD研修会

「教育DXの推進に向けた一歩～ICTを活用した探究的・実践的な学びを強化する取り組み～」の開催

1月27日に本学で初めてとなる高大連携合同FD研修会を開催しました。デジタイゼーションとしてのICTを活用した探究的・実践的な学びを強化する取り組みをテーマとし、県内公立高校2校を招いて、お互いの学校で取り組んでいるICT活用事例を紹介しながら意見交換を行いました。参加者からは「ICT活用の具体性について、探究的・実践的な学びのヒントを得ることができた」「今後より深く他校教員との情報交換をしたい」といった感想が寄せられました。



グループワークの様子



看護大発表の様子

クラウド型実習支援システム「F.CESS Nurse」の導入

本学では、重要施策として掲げる教育DX化の一環として、4月よりクラウド型実習支援システム「F.CESS Nurse」を導入しました。これにより、従来の紙媒体による実習記録をICT化し、データの蓄積と活用を進めています。

本システムは、演習や臨地実習に必要な機能を一体的に提供するものです。実習記録のデジタル化に留まらず、ルーブリック評価の実施や、学修成果を蓄積するeポートフォリオとしても活用できます。また、蓄積されたデータの可視化により、学生は自身の学びを客観的に把握し教員は個別の学修状況に応じたタイムリーな指導を実現しています。導入により学生の記録負担の軽減と学修への集中が期待され、教員も学生の学修状況をより迅速に把握できる体制を整備することができました。

今後は実習施設との連携を深め、赤十字の理念に基づいた、質の高い看護教育の実現に邁進して参ります。

ひとりを看る目、その目を世界へ

日本赤十字九州国際看護大学

設置学部等 看護学部／大学院

電 話 0940-35-7001

住 所 福岡県宗像市アスティ1-1



学長

池松 裕子

令和7年度入学生は112名と復活の兆しを示しましたが、全国的な18歳人口の減少と高校生の看護離れは顕著であり、予断を許しません。本学は、赤十字マインドを体現できる看護師の輩出という使命を全うするため、魅力ある大学づくりに取り組んでいます。特に令和7年度はコロナ禍で著しく縮小してしまった大学祭とサークル活動の復活に注力しました。いずれも開学以来積み上げてきた先輩たちのノウハウが失われてしまい、学生たちにとっては五里霧中での復活です。大学祭（遙碧祭）は、昨年度ゼロだったゲストの誘致にも成功し、本学サークルによるエイサーの演舞とともに、ステージを盛り上げてくれました。また、ほとんど活動停止状態だった吹奏楽部はクラウドファンディングを達成し、記念すべき第一回演奏会を開催できました。ほかにも弓道場再整備、野球部創部とますます活性化が期待できます。本学は決して交通の便がいいわけではありませんが、その分、広々としたキャンパスを擁しています。のびのびとしたキャンパスライフを楽しんでもらいたいと思っています。

第1回グローバル・ワークショップを開催



6月11日、第1回グローバル・ワークショップを開催しました。赤十字の医療救護活動をテーマに、福岡赤十字病院および日本赤十字社福岡県支部の協力のもと、講演や救護所設営、炊き出しを実施しました。近隣の日本語学校の留学生も参加し、交流を深めました。学生達は、現場における理想と現実、そこに伴う葛藤や工夫について知り、支援をより現実的な視点から考える貴重な機会となりました。

救護テントの前にて

福岡県看護協会（第11地区）と共催で看護職対象に「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）について考えよう」を開催

8月7日、福岡県看護協会（第11地区）と共催し、看護職を対象とした公開講座「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）について考えよう」を開催しました。本学の教員が講師を務め、宗像・遠賀地域の看護職が参加しました。講座では、「もしバナゲーム」を活用しながら、人生の最終段階における医療や意思決定支援について意見交換を行い、地域医療における学びと連携を深めました。



各施設の情報交換や課題について話し合いました

高校生を対象とした福岡赤十字病院でのインターンシップ（看護体験）を開催

8月20日、福岡赤十字病院において高校生を対象としたインターンシップ（看護体験）を開催しました。参加者は現役の看護師による案内のもと、看護やりハビリの現場を見学しました。その後、看護部長による講話や看護師の方との意見交換を通して、赤十字病院の役割や看護職の魅力について理解を深め、将来への意欲を高める機会となりました。



病院の看護師の引率による見学と体験



福岡市防災センターで消火活動を体験

赤十字活動Ⅱ 留学生とともに災害について学習

赤十字活動Ⅱでは、スイスのラ・ソース大学、インドネシアのアイルランガ大学の学生とともに、3週間にわたり災害管理を学習しました。一次救命処置の演習や、防災センターでの体験学習、地域住民と段ボールトイレを作成する活動に参加するなど、多様なプログラムを実施しました。学生達は文化や言語の違いを乗り越えて協力し、災害時にはコミュニケーション、協力・協働が重要であると改めて実感しました。

吉武小学校で出前授業「むなかた子ども大学（血液のふしぎ）」を実施

吉武小学校で開催された「むなかた子ども大学」において、本学が「血液」をテーマとした出前授業を行いました。ルミノール反応を用いた実験では、血液に反応して光る様子に子どもたちから歓声が上がりました。また、献血の役割や大切さについても学び、「献血がとても大切だと分かりました」といった感想が寄せられました。学生ボランティアも参加し、地域交流と学びの場となりました。



「血液のふしぎ」
体験活動の様子



異文化コミュニケーションでタイを訪問

異文化コミュニケーションの研修としてタイを訪問し、現地の文化や医療について学びました。タイの学生との交流では、言語や文化の違いを越えて積極的にコミュニケーションを図り、多文化理解を深めました。また、医療施設の見学を通して、日本とは異なる医療環境や設備について理解を深めることができました。学生にとって、国際的な視野や相手を尊重する姿勢の重要性を学ぶ貴重な機会となりました。

臓器提供センターで説明を受けている様子

アスティ祭【健康応援企画】を実施

11月2日に開催されたアスティ祭で、本学は健康応援企画として各種健康測定や公開講座を行いました。ロコモチェックや骨密度測定には予想を上回る参加があり、地域の皆さまの健康への関心の高さを感じました。公開講座では、フレイルや骨粗鬆症予防について学ぶとともに、アスリートの指導による正しい歩き方や身体の使い方を体験しました。学生ボランティアも参加し、地域との交流を深める機会となりました。

血圧測定は学生ボランティアの担当です



日本赤十字看護大学附属災害救護研究所の動向



災害救護研究所は、日本赤十字看護大学の附属機関として2021（令和3）年6月1日に設置されました。日本赤十字社の救護活動を中心とする諸活動等で得た知見を広く社会に発信・還元するとともに、災害救護に関する研究・教育活動を通じて我が国の救護の質・量の向上と活動領域の拡大に寄与することで、被災者の苦痛の予防・軽減に資することを目的としています。

10の部門において多様な課題に対する研究活動を行い、災害関係雑誌への投稿、論文執筆や学会発表、ホームページ、毎年開催するセミナー等によりその結果を周知しています。当研究所はこれからも日本赤十字社、並びに赤十字学園をはじめ行政や他機関との連携・協働を進めていきます。

部門	今年度の主な研究テーマ
災害救護部門	・原子力災害下で活動する保健医療福祉活動チームへの放射線防護措置研修プログラムの確立 ・本邦における医療コンテナの運用状況と今後の展望
国際医療救援部門 国際救援部門 感染症部門	・次世代の環境にやさしい医療救護施設 / 機材の開発（再生可能エネルギーで自給する低電力照明・空調システム、水生成・再利用装置、超軽量テント）（3部門の共同研究）
災害看護部門	・東日本大震災復興期における看護師による長期的な健康支援の意味 ・令和6年能登半島地震において日本赤十字社から派遣された看護師の支援
防災減災部門	・民間資金による現金給付プログラムの日本における適用条件に関する研究
心理社会的支援部門	・COVID-19 パンデミック下の医療機関におけるスタッフへの精神保健および心理社会的支援の実態調査 ・令和6年能登半島地震におけるスタッフへの精神保健および心理社会的支援の実態調査 など
災害ボランティア部門	・赤十字ボランティアの被災者支援活動のコーディネーションモデルの構築
災害救援技術部門	・災害時のモバイルインフラの利活用モデル構築に関する研究 ・厳しい気候環境下における、平常時の健康・安全課題と災害時の避難環境確立との共通解に関する研究 など
被災者生活支援部門	・災害時の被災者生活支援プログラムの作成、およびその実践に向けた研修プログラムの開発

1 大阪・関西万博での研究成果の展示

5月4日～10日に大阪・関西万博において国際医療救援部門・国際救援部門が「未来の野外診療所～ゼロ・エミシヨンの災害医療～」と題して7日間研究成果となる野外診療 TENT など展示了。野外診療 TENT は遮熱効果のある TENT 膜を用いており、暑い日でも TENT 内は涼しく感じられました。多くの来場者が訪れ万博らしい展示であると好評を得ました。

TENT の他に、超低消費電力空調、進化する医療ロボット、心をいやすりハビリメイクなどの体験もできるブースなども設置しました。



2 那覇市避難訓練 「今からはじめる！避難訓練」監修

本訓練は、10月から那覇市、全日本空輸株式会社、ANA あきんど株式会社と協働で実施したオンライン避難訓練と11月に実際の移動を伴う避難訓練を組み合わせた沖縄県内初の新しい津波避難訓練でした。オンライン避難訓練には5,362人（前年比約1.7倍）が参加したほか、特に従来参加が少なかった19歳以下の参加者数は前年比約6.5倍に増加しました。



3 研究所セミナー「新型コロナウイルス感染症の体験から私たちは何を予測し備え行動すればよいか」

2月28日にセミナーを実施しました。第一部の基調講演では、「COVID-19の経験を踏まえたNEXT PANDEMICへの備え」と題し国立国際医療センターの大曲貴夫先生、続いて古宮感染症部門長に登壇いただきました。第二部の部門研究発表では、中出国際医療救援部門長から大阪・関西万博出展報告、佐藤国際救援部門長から第23回世界災害救急医学会の参加報告がありました。



日本赤十字国際人道研究センターの動向

ミッション

日本赤十字国際人道研究センター（Japanese Red Cross Institute for Humanitarian Studies: JRCIHS）は、日本赤十字社の学術研究、調査活動の拠点として平成23年4月、学校法人日本赤十字学園に設置されました。

赤十字の理念、原則、歴史、諸活動の調査研究の成果を広く社会に提供し、多様な研究者並びに一般の方々の赤十字活動への理解と共感を促進し、人道の実現に寄与することを願い活動しています。これらの研究活動は、本学園の各大学・日本赤十字社所属の研究員及びその他の大学・研究機関等所属の客員研究員により進められています。

主な活動内容

- 赤十字の理念、原則、歴史、活動に関する史料の収集、調査研究
- 赤十字思想、国際人道法の研究・普及啓発のための資料、刊行物等の制作
- 人道問題への理解を促進し、人道的価値観の普及を目指す講演・イベント等への講師派遣

令和7年度の研究活動

1 「人道研究ジャーナル Vol.15」の刊行

本誌は、当センターの機関誌であり、本号では所長の巻頭言、特集「国際人道法と基本原則」「東日本大震災15年——災害にソナエル!」を組むなど各種論考を掲載しました。

（配布先：日本赤十字社本社・都道府県支部・施設、関連省庁、人道関連団体、大学研究者、大学図書館及び教育機関など）



人道研究ジャーナル Vol.15

2 赤十字関連の教育・啓発用資材の制作

（1）「日本赤十字社の創立と赤十字ゆかりの地」の刊行

本冊子は日本赤十字社（以下、日赤）の歴史に詳しい日赤OBの佐藤雅紀氏が執筆した、日赤の二人の創立者及び、日赤の前身「博愛社」の創立、西南戦争における救護活動など日赤の草創期から明治期にかけての歴史と活動、さらにはそのゆかりの地を紹介する歴史書です。

（配布先：日赤本社・都道府県支部、本学園の大学など）



日本赤十字社の創立と
赤十字ゆかりの地

（２）「災害後の遺体管理―初動対応者のための現場マニュアル第2版」の発行

本冊子は、パン・アメリカン保健機構、世界保健機関、赤十字国際委員会、及び国際赤十字・赤新月社連盟などの国際機関が作成した実務指針「Management of Dead Bodies after Disasters: A Field Manual for First Responders Second Edition」を当センター研究員（日本赤十字広島看護大学講師）の高田洋介氏が訳出したものです。

（配布先：日赤本社・都道府県支部・施設、本学園の大学など）



災害後の遺体管理―初動対応者のための現場マニュアル第2版

各冊子は、当センターのホームページにてPDF版を無料公開しています。

3 「国際人道法模擬裁判国内予選大会」への職員派遣



赤十字国際委員会（ICRC）駐日代表部主催2025年度国際人道法模擬裁判国内予選大会に当センターから角田所長を裁判官役として派遣しました。（令和7年11月開催）

国際人道法模擬裁判国内予選大会

4 日本赤十字社の歴史史料調査・収集

日本赤十字看護大学史料室では、明治23年の看護婦養成開始当時より所蔵されてきた歴史史料の収集・保存と編纂活動を行うとともに、看護の歴史に関する研究・教育の促進のため、史料の閲覧サービス、研究成果やデータベースの一部を学内展示コーナーやホームページで随時、公開しています。

企画展「福島県浪江町への保健支援活動～東日本大震災と災害看護～」（令和7年3月～令和9年3月まで延長予定）を開催しています。



日本赤十字看護大学・展示コーナー

5 研究員による主な研究活動

- 赤十字・赤新月アーキビストと博物館学芸員会議への参加（令和7年5月開催 於ドイツ）
- 国民保護法に基づく日本赤十字社の対応に関する調査研究
- 赤十字看護師としての教育の現状と工夫に関する考察
- 日航機123便墜落事故における日本赤十字社の救護活動に係る調査研究
- 赤十字が取り組む、人の尊厳を護る災害対策の研究
- 赤十字の基本原則に関する実践知の共有システム構築の試み
- 第二次世界大戦中の捕虜待遇に関する資料の収集・分析

学生の動向

1 入学者の状況（令和7年5月1日現在）

令和7年度の学部入学人数は、6大学7学部で合わせて804人でした。また、大学院は修士課程70人及び博士課程12人、短期大学は6人がそれぞれ入学しました。

（単位：人）

学 校 名	看護学部			大学院看護学研究科				
	入学定員	志願者	入学者	課程	専 攻	入学定員	志願者	入学者
日本赤十字 北海道看護大学	100	154	68	修士	看護学	16	12	11
				博士	共同看護学 ※1	2	0	0
日本赤十字 東北看護大学	100	276	106	修士	看護学	12	6	5
				博士	共同看護学 ※1	2	1	1
日本赤十字看護大学				修士	看護学	32	36	23
					国際保健助産学	15	20	13
				博士	看護学 ※1	10	11	8
					共同災害看護学 ※2	—	—	—
日本赤十字 豊田看護大学	120	455	133	修士	看護学	10	4	4
				博士	共同看護学 ※1	2	1	1
日本赤十字 広島看護大学	125	469	140	修士	看護学	10	9	8
				博士	共同看護学 ※1	2	2	2
日本赤十字 九州国際看護大学	100	303	112	修士	看護学	10	10	6
				博士	共同看護学 ※1	2	0	0
合 計	755	3,298	804	修士	看護学	90	77	57
					国際保健助産学	15	20	13
					合 計	105	97	70
	(参考) 3 年次編入 日本赤十字看護大学看護学部			博士	共同看護学 ※1	10	4	4
					看護学 ※1	10	11	8
					共同災害看護学 ※2	—	—	—
					合 計	20	15	12
	10	26	14					

博士課程のうち、※1は博士後期課程、※2は5年一貫制博士課程

（単位：人）

学 校 名	介護福祉学科		
	入学定員	志願者	入学者
日本赤十字 東北看護大学 介護福祉短期大学部	30	7	6

2 在学生の状況 (令和7年5月1日現在)

令和7年度の在学生数については、学部学生は6大学7学部で合わせて3,249人、大学院生は修士課程183人及び博士課程80人でした。また、短期大学では20人が在学していました。

(単位:人)

学 校 名	看護学部		大学院看護学研究科			
	収容定員	在学生	課程	専 攻	収容定員	在学生
日本赤十字 北海道看護大学	400	354	修士	看護学	32	21
			博士	共同看護学 ※1	6	9
日本赤十字 東北看護大学	400	422	修士	看護学	24	11
			博士	共同看護学 ※1	6	3
日本赤十字看護大学			修士	看護学	64	65
看護学部	540	616		国際保健助産学	30	31
さいたま 看護学部	320	355	博士	看護学	30	35
				共同災害看護学 ※2	—	5
日本赤十字 豊田看護大学	480	533	修士	看護学	20	15
			博士	共同看護学 ※1	6	11
日本赤十字 広島看護大学	500	544	修士	看護学	20	20
			博士	共同看護学 ※1	6	8
日本赤十字 九州国際看護大学	400	425	修士	看護学	20	20
			博士	共同看護学 ※1	6	9
合 計	3,040	3,249	修士	看護学	180	152
				国際保健助産学	30	31
				合 計	210	183
			博士	共同看護学 ※1	30	40
				看護学	30	35
				共同災害看護学 ※2	—	5
				合 計	60	80

博士課程のうち、※1は博士後期課程、※2は5年一貫制博士課程

(単位:人)

学 校 名	介護福祉学科	
	収容定員	在学生
日本赤十字 東北看護大学 介護福祉短期大学部	60	20

3 卒業生の進路状況 (令和8年4月1日現在)

令和7年度の学部卒業生は808人であり、就職者のうち382人(52.8%)が赤十字病院に就職しました。また、修士課程の修了者75人のうち27人(36.0%)及び博士課程の修了者19人のうち3人(15.8%)が、赤十字病院・赤十字関係教育機関等に就職しました。なお、学部卒業生のうち238人(29.5%)が、赤十字奨学金を受給しています。

【看護学部】

(単位:人)

学 校 名	卒業者数	就 職 者					看護師等 資格の 不要な職 に就く者	進学者	就職・進学 以外の 進路者	進路 未定者
		合 計	内 訳							
			赤十字病院 (%は対就職者数)	赤十字 以外 の病院	その他 (要看護師 等資格)					
日本赤十字北海道看護大学	110	98	77	78.6%	20	1	1	6	0	5
(うち赤十字奨学生)	68	60	60		0	0	0	5	0	3
日本赤十字東北看護大学	101	83	40	48.2	42	1	8	4	0	6
(うち赤十字奨学生)	29	25	25		0	0	0	2	0	2
日本赤十字看護大学看護学部	157	132	56	42.4	76	0	5	15	3	2
(うち赤十字奨学生)	29	27	22		5	0	1	0	0	1
日本赤十字看護大学さいたま看護学部	83	80	35	43.8	41	4	1	1	0	1
(うち赤十字奨学生)	10	10	10		0	0	0	0	0	0
日本赤十字豊田看護大学	129	120	67	55.8	52	1	0	2	0	7
(うち赤十字奨学生)	43	39	35		4	0	0	0	0	4
日本赤十字広島看護大学	130	124	60	48.4	60	4	1	4	0	1
(うち赤十字奨学生)	38	38	37		1	0	0	0	0	0
日本赤十字九州国際看護大学	98	86	47	54.7	34	5	1	6	0	5
(うち赤十字奨学生)	21	21	20		1	0	0	0	0	0
合 計	808	723	382	52.8	325	16	17	38	3	27
うち赤十字奨学生合計	238	220	209		11	0	1	7	0	10

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職者」～「進路未定者」の合計と「卒業生数」とは一致しない場合がある。

【短期大学 介護福祉学科】

(単位:人)

学 校 名	卒業者数	就 職 者					進学者	進路 未定者
		合 計	内 訳					
			赤十字 関係施設	赤十字 以外の 医療施設	赤十字 以外の 福祉施設	その他 (行政等)		
日本赤十字東北看護大学 介護福祉短期大学部	12	12	0	0	11	1	0	0

※卒業生には赤十字奨学生はいない。

【大学院】

(修士課程)

(単位:人)

学 校 名	修了者数	就 職 者						進学者		進路 未定者 (就職・進学 以外の進路 含む)
		合 計	内 訳							
			医療機関			その他(行政・教育施設等)				
			赤十字病院 (%は対就職者数)	赤十字以外 の病院	赤十字 関係	赤十字 以外	赤十字 関係	赤十字 以外		
日本赤十字北海道看護大学	7	7	2	28.6%	4	0	1	0	0	0
うち赤十字奨学生	2	2	2		0	0	0	0	0	0
日本赤十字東北看護大学	5	5	1	20.0	3	1	0	0	0	0
うち赤十字奨学生	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字看護大学	44	41	13	31.7	22	5	1	1	0	2
うち赤十字奨学生	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字豊田看護大学	2	2	1	50.0	1	0	0	0	0	0
うち赤十字奨学生	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字広島看護大学	5	5	2	40.0	3	0	0	0	0	0
うち赤十字奨学生	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字九州国際看護大学	12	12	2	16.7	10	0	0	0	0	0
うち赤十字奨学生	0	0	0		0	0	0	0	0	0
合 計	75	72	21	29.2	43	6	2	1	0	2
うち赤十字奨学生合計	2	2	2		0	0	0	0	0	0

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職者」～「進路未定者」の合計と「修了者数」とは一致しない場合がある。

(博士課程)

(単位:人)

学 校 名		修了者数	就 職 者						進学者		進路 未定者 (就職・進学 以外の進路 含む)
			合 計	内 訳							
				医療機関		その他(行政・教育施設等)					
				赤十字病院 (%は対就職者数)	赤十字以外 の病院	赤十字 関係	赤十字 以外	赤十字 関係	赤十字 以外		
博士 後期 課程	日本赤十字北海道看護大学	3	3	0	0.0%	2	0	1	0	0	0
	(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	日本赤十字東北看護大学	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	日本赤十字看護大学	10	8	0	0.0	0	0	8	0	0	2
	(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	日本赤十字豊田看護大学	2	2	0	0.0	0	2	0	0	0	0
	(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	日本赤十字広島看護大学	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	日本赤十字九州国際看護大学	3	3	0	0.0	1	1	1	0	0	0
	(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	小 計	18	16	0	0.0	3	3	10	0	0	2
	うち赤十字奨学生小計	0	0	0		0	0	0	0	0	0
5年 一貫制 博士課程	日本赤十字看護大学	1	1	0	0.0	0	0	1	0	0	0
	(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	小 計	1	1	0	0.0	0	0	1	0	0	0
	うち赤十字奨学生小計	0	0	0		0	0	0	0	0	0
合 計		19	17	0	0.0	3	3	11	0	0	2
うち赤十字奨学生合計		0	0	0		0	0	0	0	0	0

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職者」～「進路未定者」の合計と「修了者数」とは一致しない場合がある。

4 国家試験の合格状況（看護師・保健師・助産師・介護福祉士）

6大学における各国家試験の新卒者の平均合格率は、看護師96.7%、保健師94.2%及び助産師100%でした。また、短期大学の介護福祉士国家試験の合格率は100%でした。引き続き各大学では、合格率100%を目指し、教育・指導を強化することとしています。

●第115回看護師国家試験

（単位：人）

学 校 名	合 計			新 卒			既 卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学	113	106	93.8%	110	104	94.5%	3	2	66.7%
日本赤十字東北看護大学	106	97	91.5	101	94	93.1	5	3	60.0
日本赤十字看護大学看護学部	145	143	98.6	144	142	98.6	1	1	100.0
日本赤十字看護大学さいたま看護学部	83	81	97.6	83	81	97.6	0	0	—
日本赤十字豊田看護大学	130	124	95.4	129	123	95.3	1	1	100.0
日本赤十字広島看護大学	132	129	97.7	130	128	98.5	2	1	50.0
日本赤十字九州国際看護大学	97	95	97.9	95	94	98.9	2	1	50.0
合 計	806	775	96.2	792	766	96.7	14	9	64.3

●第112回保健師国家試験

（単位：人）

学 校 名	合 計			新 卒			既 卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学	22	20	90.9%	19	19	100.0%	3	1	33.3%
日本赤十字東北看護大学	23	19	82.6	23	19	82.6	0	0	—
日本赤十字看護大学看護学部	21	21	100.0	21	21	100.0	0	0	—
日本赤十字看護大学さいたま看護学部	20	20	100.0	20	20	100.0	0	0	—
日本赤十字豊田看護大学	22	22	100.0	22	22	100.0	0	0	—
日本赤十字広島看護大学	33	29	87.9	31	28	90.3	2	1	50.0
日本赤十字九州国際看護大学	19	16	84.2	18	16	88.9	1	0	0.0
合 計	160	147	91.9	154	145	94.2	6	2	33.3

●第109回助産師国家試験

（単位：人）

学 校 名	合 計			新 卒			既 卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学大学院	6	6	100.0%	6	6	100.0%	0	0	— %
日本赤十字東北看護大学大学院	3	3	100.0	3	3	100.0	0	0	—
日本赤十字看護大学大学院	13	13	100.0	13	13	100.0	0	0	—
日本赤十字九州国際看護大学大学院	4	4	100.0	4	4	100.0	0	0	—
合 計(大学院)	26	26	100.0	26	26	100.0	0	0	—
日本赤十字広島看護大学（学部）	11	11	100.0	11	11	100.0	0	0	—
合 計	37	37	100.0	37	37	100.0	0	0	—

※既卒の受験者はいない。

●第38回介護福祉士国家試験（新卒）

（単位：人）

学 校 名	受験者	合格者	合格率
日本赤十字東北看護大学介護福祉短期学部	12	12	100.0%

※既卒の受験者はいない。

教育活動の動向

各大学においては、学生のニーズに配慮した質の高い看護教育への取り組みを実施しています。
また、短期大学では、医療・福祉の現場で活躍できる介護福祉士教育が行われています。

1 ICTを活用した教育の推進

平成28年度から、北海道、東北、豊田、広島及び九州の5看護大学が連携して「大学院看護学研究科共同看護学専攻(博士後期課程)」を設置し、主にWeb会議ツールを用いた教育が実施されています。これまでに蓄積してきた赤十字の教育・研究の資源や成果を1つの「共同教育課程」を通じて有機的に機能させ、看護の発展に寄与できる研究者、教育者及び実践者の養成を目指しています。

2 赤十字病院等と連携した臨地実習

各大学では、臨地実習科目を赤十字病院等と連携して行っています。また、赤十字病院では、看護教員資格を取得可能な研修や臨地実習指導者養成講習会などの教育・指導に関する研修を修了した者が多く在籍し、質の高い臨地実習環境が提供されています。

3 大学院における専門看護師(CNS)教育課程の推進

保健・医療・福祉の発展に貢献し、看護実践の質の向上を図ることに寄与できる高度専門職業人としての看護師を育成するため、全看護大学大学院において、専門看護師(CNS)教育課程を開設しています。

令和7年度は、4看護大学で合計23人が同教育課程を修了しました。

●専門看護師(CNS)の教育課程を設置する大学

(単位:人)

学 校 名	教育課程名	日本看護系大学協議会 認定単位	修了者数	学 校 名	教育課程名	日本看護系大学協議会 認定単位	修了者数
日本赤十字 北海道看護大学大学院	慢性看護	38	0	日本赤十字 豊田看護大学大学院	小児看護	38	0
	精神看護	38	0		老年看護	38	0
日本赤十字 東北看護大学大学院	がん看護	38	1		日本赤十字 広島看護大学大学院	精神看護	38
	老年看護	38	0	小児看護		38	1
	精神看護	38	0	精神看護		38	1
日本赤十字 看護大学大学院	がん看護	38	0	日本赤十字 九州国際看護大学大学院		災害看護	38
	小児看護	38	1		がん看護＊	38	0
	慢性看護	38	3		クリティカルケア看護	38	1
	クリティカルケア看護	38	4	在宅看護	38	0	
	老年看護	38	2		精神看護	38	1
	精神看護	38	1		老年看護	38	1
	在宅看護	38	3		合 計	—	23
	災害看護	38	3				

※各大学とも看護学研究科看護学専攻修士課程に設置

注)CNS:Certified Nurse Specialist *休講

4 認定看護管理者(CNA)教育課程の開設

3看護大学大学院(日看大・豊田・広島)では、認定看護管理者の認定審査を受験できるコース等を設置して資格取得に向けた教育を行っており、令和7年度は5人が修了しました。

●認定看護管理者(CNA)認定審査の
受験資格が取得可能な大学

(単位:人)

学 校 名	領 域	修了者数
日本赤十字 看護大学大学院	看護管理学領域	3
日本赤十字 豊田看護大学大学院	看護管理学領域	0
日本赤十字 広島看護大学大学院	教育・研究者コース	2
合 計	—	5

※各大学とも修士課程に設置

注)CNA:Certified Nurse Administrator

当学園が設置する各大学の教員は、災害・国際看護などの看護学に関する研究、看護教育に関する研究、赤十字に関する研究など、個々の専門性を活かした研究に取り組みました。

1 学園基金等による研究活動助成

「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」では、赤十字に関する研究として9件の応募に対して8件を採択し、14,925千円を交付しました。また、継続事業として、8件の研究を支援しています。

教員の教育・研究活動を推進するための「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による支援については、7件の応募に対して5件を採択し、4,349千円を交付しました。また、継続事業として、3件の研究を支援しています。

●令和7年度「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」による支援事業の状況 【新規事業】

学 校 名	支援事業テーマ
日本赤十字東北看護大学	東日本大震災後10年以上を経て振り返る医療従事者の経験 ー複合災害に見舞われた福島県相馬・南相馬地区での今なお続く支援を通じてー
日本赤十字看護大学	訪問看護における連絡ノートを紹介したコミュニケーションの創発：連絡ノートの機能解明と在宅ケア現場での試用による実装研究
	日本の看護系大学における SOGI（性的指向・性自認）の多様性教育プログラム開発
日本赤十字豊田看護大学	家事・育児分担に着目した親への移行期のコペアレンティングの関連要因、コペアレンティングの子育ておよび親としての適応への影響の検証
	赤十字病院との連携による卒後キャリア形成支援策の検討
	妊婦の胎児への愛着と防災力の関連
日本赤十字広島看護大学	看護大学と病院の連携によるヒューマンエラー防止教育プログラムの開発と効果検証
日本赤十字九州国際看護大学	集中治療における終末期患者の在宅移行の実態：スコーピングレビューおよびアンケート調査
5 大学 8 件	

【継続事業】

学 校 名	支援事業テーマ
日本赤十字東北看護大学	過疎農村高齢者に対する ICT 活用型集団健康教育・アウトリーチ複合プログラムの開発
日本赤十字看護大学	戦間期における日本の公衆衛生看護の発展と日本赤十字社の役割に関する研究
	日本赤十字社の看護婦養成と看護教育の近代化：大山捨松の活動に焦点を当てて
日本赤十字豊田看護大学	看護学生のための避難生活における看護援助を学習する机上シミュレーション教材の開発
	実習記録の電子化による学習成果
	防護動機理論を用いた産科病棟における災害対策の現状とその関連要因の検討
	赤十字病院の複数の部署と大学が連携して取り組む幼児の術前看護モデルの検証
	浅い鎮静深度で管理されている人工呼吸器装着患者に対する睡眠支援
3 大学 8 件	

●令和7年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による支援事業の状況

【新規事業】

学 校 名	支援事業テーマ
日本赤十字看護大学	子育て中の女性看護師のマミートラックの実態
	コミュニティケアに関する学習の充実に向けた取り組み：「コミュニティ演習」における実践からの学び
日本赤十字豊田看護大学	病院における高齢者のエンドオブライフケア質向上ツールの汎用性と長期的な効果の検証
	院内助産システムが中止に至った施設における、その背景と要因の解明
日本赤十字九州国際看護大学	診断後間もない成人期クローン病患者に対するアプリを活用したセルフケア支援の検証
3 大学 5 件	

【継続事業】

学 校 名	支援事業テーマ
日本赤十字豊田看護大学	ベトナム人介護職員が行う口腔ケアの実践と指導状況の実際
	国際的に活躍する看護学生育成のための教育活動・評価・ルーブリック開発について 一赤十字の理念と建学の精神を中心に
	場面緘黙を抱える成人当事者と家族に有効なサポートの検討
1 大学 3 件	

2 科学研究費等競争的外部資金に係る申請・採択状況

各大学の教員は、研究活動の活性化のため、科学研究費等競争的外部資金への応募を行っています。令和7年度は、6看護大学・1短期大学で合計78件(前年92件)の新規応募を行い、16件(20.5%, 前年度33件)が採択されました。

また、助成金額の合計額は、「直接経費」が107,137千円(前年度103,452千円)、「間接経費」が28,886千円(前年度27,735千円)の合わせて136,023千円(前年度131,187千円)でした。

●令和7年度科学研究費等競争的外部研究資金に係る申請・採択状況

【大学別採択件数】

(単位:件)

学 校 名	研究代表者				研 究 分 担 者
	新 規		継 続	合 計	
	申 請	採 択			
日本赤十字北海道看護大学	20	3	8	11	10
日本赤十字東北看護大学	7	1	9	10	4
日本赤十字看護大学	14	3	19	22	25
日本赤十字豊田看護大学	9	2	17	19	18
日本赤十字広島看護大学	17	6	10	16	11
日本赤十字九州国際看護大学	11	1	11	12	6
日本赤十字東北看護大学介護福祉短期大学部	0	0	0	0	0
合 計	78	16	74	90	74

【大学別助成金額】

(単位:千円)

学 校 名	直接経費				間接経費	合 計
	研究代表者		研究分担者	小 計		
	新 規	継 続				
日本赤十字北海道看護大学	3,700	16,769	980	21,449	4,772	26,221
日本赤十字東北看護大学	1,500	3,970	550	6,020	1,806	7,826
日本赤十字看護大学	3,700	26,941	3,947	34,588	9,654	44,242
日本赤十字豊田看護大学	1,500	14,270	1,480	17,250	5,175	22,425
日本赤十字広島看護大学	6,600	7,100	1,780	15,480	4,644	20,124
日本赤十字九州国際看護大学	900	11,300	150	12,350	2,835	15,185
日本赤十字東北看護大学介護福祉短期大学部	0	0	0	0	0	0
合 計	17,900	80,350	8,887	107,137	28,886	136,023

○ 継続研究には、他学園から当学園へ異動してきた者も含む。

○ 赤十字と看護・介護に関する研究助成、教育・研究及び奨学費基金にかかる教育・研究事業は除く。

○ 「研究分担者」とは、他の大学等の教職員との共同研究において、研究代表者ではない場合である。

○ 新規研究には、育児休暇取得に伴い補助金留保となっているもの及び前所属施設で申請されたものも含む。

奨学金の受給状況

6看護大学・1短期大学において、日本赤十字社各支部・病院、日本赤十字社看護師同方会、日本学生支援機構及び自治体等から、全学生の57.2%にあたる2,019人(実人数)(延べ2,995人(昨年度より117人減)、学部・学科在学生の59.9%、大学院在学生の23.2%)が奨学金を受けました。

そのうち、日本赤十字社各支部・病院からの奨学金は、奨学金受給学生延べ人数の22.9%にあたる686人が受給しました。「高等教育の修学支援新制度」を利用した学生は854人でした。

また、6看護大学・1短期大学における奨学金の受給総額は、17億2,852万円で、一人あたり(実人数)の受給額は学部で約85万円、大学院では約95万円となりました。

●赤十字奨学金の大学別受給状況(令和7年度在学生の実績)

【支部からの受給状況】

※赤十字奨学金を受給している場合に○を付しています。
また、短期大学での受給はありませんでした。

支部名	北海道看護大学	日本赤十字東北看護大学	日本赤十字看護大学	日本赤十字豊田看護大学	日本赤十字広島看護大学	九州国際看護大学	日本赤十字	支部名	北海道看護大学	日本赤十字東北看護大学	日本赤十字看護大学	日本赤十字豊田看護大学	日本赤十字広島看護大学	九州国際看護大学	日本赤十字
北海道								滋賀県							
青森県		○						京都府							
岩手県								大阪府					○	○	
宮城県								兵庫県							
秋田県								奈良県							
山形県								和歌山県							
福島県	○	○						鳥取県							
茨城県								島根県							
栃木県								岡山県							
群馬県								広島県							
埼玉県								山口県							
千葉県	○	○	○		○	○		徳島県							
東京都								香川県							
神奈川県								愛媛県							
新潟県								高知県							
山梨県								福岡県						○	
富山県				○				佐賀県						○	
石川県								長崎県						○	
福井県								熊本県						○	
長野県				○				大分県						○	
岐阜県				○				宮崎県						○	
静岡県				○				鹿児島県						○	
愛知県				○				沖縄県						○	
三重県				○				合計	2	3	1	6	2	10	

【医療施設からの受給状況】

医療施設名		北海道看護大学	日本赤十字 東北看護大学	日本赤十字 看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学	医療施設名		北海道看護大学	日本赤十字 東北看護大学	日本赤十字 看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学
1	日本赤十字社医療センター			○		○		46	高山赤十字病院						
2	旭川赤十字病院	○						47	岐阜赤十字病院				○		
3	伊達赤十字病院	○						48	静岡赤十字病院				○		
4	釧路赤十字病院	○						49	浜松赤十字病院			○	○		
5	北見赤十字病院	○						50	伊豆赤十字病院						○
6	栗山赤十字病院	○						51	裾野赤十字病院						
7	浦河赤十字病院	○						52	日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院				○		
8	小清水赤十字病院	○						53	日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院				○		
9	置戸赤十字病院	○						54	伊勢赤十字病院	○			○		○
10	函館赤十字病院	○	○					55	大津赤十字病院						
11	清水赤十字病院	○						56	大津赤十字志賀病院						
12	八戸赤十字病院		○					57	長浜赤十字病院						
13	盛岡赤十字病院							58	京都第一赤十字病院						
14	仙台赤十字病院		○					59	京都第二赤十字病院						
15	石巻赤十字病院		○				○	60	舞鶴赤十字病院						
16	秋田赤十字病院		○					61	大阪赤十字病院						
17	福島赤十字病院							62	高槻赤十字病院						○
18	水戸赤十字病院			○				63	姫路赤十字病院					○	
19	古河赤十字病院			○				64	多可赤十字病院						
20	芳賀赤十字病院		○					65	神戸赤十字病院						
21	那須赤十字病院		○	○				66	日本赤十字社和歌山医療センター						
22	足利赤十字病院							67	鳥取赤十字病院					○	
23	前橋赤十字病院							68	松江赤十字病院					○	
24	原町赤十字病院			○				69	益田赤十字病院						
25	さいたま赤十字病院							70	岡山赤十字病院					○	
26	小川赤十字病院							71	岡山赤十字玉野病院						
27	深谷赤十字病院			○				72	広島赤十字・原爆病院					○	
28	成田赤十字病院		○	○		○		73	庄原赤十字病院					○	
29	武蔵野赤十字病院		○	○			○	74	三原赤十字病院						
30	大森赤十字病院		○	○		○		75	山口赤十字病院						○
31	東京かつしか赤十字母子医療センター							76	小野田赤十字病院						
32	みなと赤十字病院	○	○	○			○	77	徳島赤十字病院						
33	秦野赤十字病院			○				78	高松赤十字病院				○	○	
34	相模原赤十字病院	○		○				79	松山赤十字病院					○	
35	長岡赤十字病院							80	高知赤十字病院					○	
36	山梨赤十字病院							81	福岡赤十字病院						○
37	富山赤十字病院							82	今津赤十字病院						
38	金沢赤十字病院							83	嘉麻赤十字病院						
39	福井赤十字病院							84	唐津赤十字病院						
40	長野赤十字病院		○		○			85	日本赤十字社長崎原爆病院						
41	諏訪赤十字病院							86	日本赤十字社長崎諫早病院						
42	安曇野赤十字病院							87	熊本赤十字病院						○
43	川西赤十字病院							88	大分赤十字病院						
44	下伊那赤十字病院							89	鹿児島赤十字病院						○
45	飯山赤十字病院							90	沖縄赤十字病院						
合計										13	12	13	8	12	10

学校会計の決算状況を報告します

1 資金収支決算

資金収支計算書は、当該会計年度の教育・研究その他の活動に対応する全ての収入・支出の内容及び支払資金の動きを明らかにするものです。

1 資金収入の部

資金収入合計 **14,502,329**千円（前年度比 **208,251**千円 **増**）

資金収入合計で、**増額**となりました。

（単位：千円）

科目	令和7年度			令和6年度 決算額	対前年度比較	
	予算額	決算額	差異		増減額	増減率(%)
学生生徒等納付金収入	5,689,960	5,576,357	113,603	5,614,340	① △ 37,983	△ 0.7
手数料収入	105,608	101,936	3,672	102,903	△ 967	△ 0.9
寄付金収入	341,541	517,154	△ 175,613	358,112	② 159,042	44.4
補助金収入	1,623,774	1,715,746	△ 91,972	1,213,994	③ 501,752	41.3
資産売却収入	0	0	0	239	△ 239	△ 100.0
付随事業・収益事業収入	27,924	20,935	6,989	25,542	△ 4,607	△ 18.0
受取利息・配当金収入	127,908	157,354	△ 29,446	122,446	④ 34,908	28.5
雑収入	41,614	74,306	△ 32,692	44,163	30,143	68.3
借入金等収入	0	0	0	0	0	—
前受金収入	441,840	418,344	23,496	433,354	△ 15,010	△ 3.5
その他の収入	2,146,307	2,146,886	△ 579	2,487,881	△ 340,995	△ 13.7
資金収入調整勘定	△ 536,739	△ 576,536	39,797	△ 529,865	△ 46,671	8.8
前年度繰越支払資金	4,349,837	4,349,841	△ 4	4,420,963	⑤ △ 71,122	△ 1.6
合 計	14,359,574	14,502,329	△ 142,755	14,294,078	208,251	1.5

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

① 学生生徒等納付金収入 前年度比 **37,983**千円 **減**

→北海道看護大学及び東北短期大学部の在学生数の減少等により、前年度比**37,983**千円の**減額**となりました。

② 寄付金収入 前年度比 **159,042**千円 **増**

→教育基盤整備事業に対する日本赤十字社からの助成金の増加等により、前年度比**159,042**千円の**増額**となりました。

③ 補助金収入 前年度比 **501,752**千円 **増**

→授業料等減免費交付金の対象拡充による経常費等補助金の増加等により、前年度比**501,752**千円の**増額**となりました。

④ 受取利息・配当金収入 前年度比 **34,908**千円 **増**

→国内債券及び銀行預金の金利上昇等により、前年度比**34,908**千円の**増額**となりました。

⑤ 前年度繰越支払資金 前年度比 **71,122**千円 **減**

→前年度繰越支払資金（現預金）は、前年度比**71,122**千円の**減額**となりました。

2 資金支出の部

資金支出合計 **14,502,329**千円（前年度比 **208,251**千円 **増**）

資金支出合計で、**増額**となりました。

（単位：千円）

科目	令和7年度			令和6年度 決算額	対前年度比較	
	予算額	決算額	差異		増減額	増減率(%)
人件費支出	4,717,277	4,672,027	45,250	4,658,324	① 13,703	0.3
教育研究経費支出	2,453,883	2,301,938	151,945	2,018,834	② 283,104	14.0
管理経費支出	444,116	413,999	30,117	397,468	16,531	4.2
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	—
借入金等返済支出	0	0	0	0	0	—
施設関係支出	511,079	482,685	28,394	583,753	③ △ 101,068	△ 17.3
設備関係支出	351,976	328,326	23,650	552,552	④ △ 224,226	△ 40.6
資産運用支出	189,522	335,129	△ 145,607	472,228	⑤ △ 137,099	△ 29.0
その他の支出	2,205,779	2,440,464	△ 234,685	2,151,764	288,700	13.4
予備費	0	0	0	0	0	—
資金支出調整勘定	△ 400,368	△ 452,768	52,400	△ 890,690	437,922	△ 49.2
翌年度繰越支払資金	3,886,310	3,980,526	△ 94,216	4,349,841	⑥ △ 369,315	△ 8.5
合 計	14,359,574	14,502,329	△ 142,755	14,294,078	208,251	1.5

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

①人件費支出 前年度比**13,703**千円 **増**

→給与の定期昇給分やベースアップ分も含め、学園全体としては、前年度比**13,703**千円の**増額**となりました。

②教育研究経費支出 前年度比**283,104**千円 **増**

→授業料等減免費交付金の経常費等補助金の増加に基づく学生に対する奨学費の増加等により、前年度比**283,104**千円の**増額**となりました。

③施設関係支出 前年度比**101,068**千円 **減**

→前年度に九州国際看護大学等の大規模な施設更新があったため、前年度比**101,068**千円の**減額**となりました。

④設備関係支出 前年度比**224,226**千円 **減**

→前年度に広島看護大学等の大規模な設備更新があったため、前年度比**224,226**千円の**減額**となりました。

⑤資産運用支出 前年度比**137,099**千円 **減**

→施設設備整備引当特定資産への繰入支出の減少等により、前年度比**137,099**千円の**減額**となりました。

⑥翌年度繰越支払資金 前年度比**369,315**千円 **減**

→翌年度繰越支払資金（現預金）は、前年度比**369,315**千円の**減額**となりました。

2 事業活動 収支決算

事業活動収支計算書は、学生生徒等納付金等本業の教育活動に対する「教育活動収支」、受取利息等財務活動に対する「教育活動外収支」及び資産売却等臨時的な活動に対する「特別収支」の3つに区分して表示しています。

また、本計算書は、当該会計年度の事業活動収入及び事業活動支出の内容並びに基本金組入額及び取崩額を含め、事業収支の均衡状態を示すものです。

(単位：千円)

区分		科目	令和7年度			令和6年度 決算額	対前年度比較	
			予算額	決算額	差異		増減額	増減率(%)
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,689,960	5,576,357	113,603	5,614,340	① △ 37,983	△ 0.7
		手数料	105,608	101,936	3,672	102,903	△ 967	△ 0.9
		寄付金	272,710	398,149	△ 125,439	238,065	② 160,084	67.2
		経常費等補助金	1,579,869	1,715,746	△ 135,877	1,213,994	③ 501,752	41.3
		付随事業収入	27,924	20,935	6,989	25,542	△ 4,607	△ 18.0
		雑収入	41,614	71,948	△ 30,334	46,090	25,858	56.1
		計	7,717,685	7,885,074	△ 167,389	7,240,936	644,138	8.9
	事業活動支出の部	人件費	4,648,278	4,612,096	36,182	4,494,970	④ 117,126	2.6
		教育研究経費	3,276,437	3,106,700	169,737	2,773,564	⑤ 333,136	12.0
		管理経費	476,665	449,055	27,610	433,226	15,829	3.7
		徴収不能額等	1,900	1,900	0	0	1,900	—
		計	8,403,280	8,169,752	233,528	7,701,760	467,992	6.1
教育活動収支差額		△ 685,595	△ 284,677	△ 400,918	△ 460,824	176,147	△ 38.2	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	127,908	157,354	△ 29,446	122,446	34,908	28.5
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	—
		計	127,908	157,354	△ 29,446	122,446	34,908	28.5
	支出の部	借入金等利息	0	0	0	0	0	—
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	—
		計	0	0	0	0	0	—
	教育活動外収支差額		127,908	157,354	△ 29,446	122,446	34,908	28.5
経常収支差額		△ 557,687	△ 127,323	△ 430,364	△ 338,378	211,055	△ 62.4	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	239	△ 239	—
		その他の特別収入	115,207	131,898	△ 16,691	138,000	△ 6,102	△ 4.4
		計	115,207	131,898	△ 16,691	138,239	△ 6,341	△ 4.6
	支出の部	資産処分差額	10,100	176,389	△ 166,289	42,058	⑥ 134,331	319.4
		その他の特別支出	300,035	304,798	△ 4,763	1,206	⑦ 303,592	25,173.5
		計	310,135	481,188	△ 171,053	43,265	437,923	1,012.2
	特別収支差額		△ 194,928	△ 349,290	154,362	94,974	△ 444,264	△ 467.8
予備費		0	0	0	0	0	—	
基本金組入前当年度収支差額		△ 752,615	△ 476,613	△ 276,002	△ 243,403	△ 233,210	95.8	
基本金組入額合計		△ 650,095	△ 857,084	206,989	△ 309,175	△ 547,909	177.2	
当年度収支差額		△ 1,402,710	△ 1,333,698	△ 69,012	△ 552,579	△ 781,119	141.4	
前年度繰越収支差額		△ 1,543,582	△ 1,543,583	1	△ 1,011,973	△ 531,610	52.5	
基本金取崩額		20,830	23,189	△ 2,359	20,970	2,219	10.6	
翌年度繰越収支差額		△ 2,925,462	△ 2,854,091	△ 71,371	△ 1,543,583	△ 1,310,508	84.9	
参考	事業活動収入計		7,960,800	8,174,328	△ 213,528	7,501,622	672,706	9.0
	事業活動支出計		8,713,415	8,650,941	62,474	7,745,026	905,915	11.7

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

1 事業活動収入の部

① 学生生徒等納付金 前年度比37,983千円 減

→北海道看護大学及び東北短期大学部の在学生数の減少等により、前年度比37,983千円の減額となりました。

② 寄付金 前年度比160,084千円 増

→教育基盤整備事業に対する日本赤十字社からの助成金の増加等により、前年度比160,084千円の増額となりました。

③ 経常費等補助金 前年度比501,752千円 増

→授業料等減免費交付金の対象拡充による経常費等補助金の増加等により、前年度比501,752千円の増額となりました。

2 事業活動支出の部

④ 人件費 前年度比117,126千円 増

→令和7年度会計基準変更による賞与引当金新設に伴う人件費の増加等により、前年度比117,126千円の増額となりました。

⑤ 教育研究経費 前年度比333,136千円 増

→授業料等減免費交付金の対象拡充による経常費等補助金の増加に基づく学生に対する奨学費の増加等により、前年度比333,136千円の増額となりました。

⑥ 資産処分差額 前年度比134,331千円 増

→東北短期大学部における有価証券処分差額の増加等により、前年度比134,331千円の増額となりました。

⑦ その他の特別支出 前年度比303,592千円 増

→令和7年度会計基準変更による前年度分の賞与引当金計上に対する過年度修正額の増加等により、前年度比303,592千円の増額となりました。

3 基本金組入額等

基本金組入額とは、学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するため、維持すべきものとして事業活動収入から組み入れた金額です。

令和7年度は、基本金全体としては、857,084千円を組み入れ、23,189千円を取り崩しました。

(参考) 基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで4種類あります。

- 第1号基本金は、施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、令和7年度は学園全体として830,085千円を組み入れ、23,190千円を取り崩しました。
- 第3号基本金は、教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金及び奨学基金等で、令和7年度の組み入れはありません。
- 第4号基本金は、恒常的な資金の維持のためのもので、令和7年度は九州国際看護大学で27,000千円を組み入れました。

3 貸借対照表

資産の部、負債及び純資産の部の科目ごとに、当該会計年度末の額を前年度会計年度末の額と比較して、当該会計年度末の財産の状況を表すものです。

(単位：千円)

科目	年度	令和7年度	令和6年度	増減
資産の部	固定資産	44,021,474	44,388,882	△ 367,408
	有形固定資産	22,767,463	22,796,772	① △ 29,309
	特定資産	20,962,469	21,394,166	② △ 431,697
	その他の固定資産	291,540	197,942	③ 93,598
	流動資産	4,168,583	4,561,650	④ △ 393,067
	資産の部合計	48,190,057	48,950,532	△ 760,475
負債の部	固定負債	1,745,385	1,800,237	⑤ △ 54,852
	流動負債	1,349,330	1,578,340	⑥ △ 229,010
	負債の部合計	3,094,716	3,378,577	△ 283,861
純資産の部	基本金	47,949,433	47,115,538	⑦ 833,895
	繰越収支差額	△ 2,854,091	△ 1,543,583	⑧ △ 1,310,508
	純資産の部合計	45,095,341	45,571,955	△ 476,614
負債及び純資産の部合計		48,190,057	48,950,532	△ 760,475

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計が一致しないことがある。

【資産の部】

①有形固定資産 前年度比29,309千円 減

→日本赤十字看護大学、九州国際看護大学の建物にかかる設備更新をはじめ、各大学の固定資産の整備により増加の一方、各大学における減価償却等により減少しました。

②特定資産 前年度比431,697千円 減

→施設設備の更新等に伴い、施設設備整備引当特定資産及び退職給与引当特定資産が減少しました。

③その他の固定資産 前年度比93,598千円 増

→長期前払金の勘定科目新設等により増加しました。

④流動資産 前年度比393,067千円 減

→前払金の減少や現金預金等が減少しました。

【負債の部】

⑤固定負債 前年度比54,852千円 減

→退職給与引当金の影響により減少しました。

⑥流動負債 前年度比229,010千円 減

→未払金等の影響により減少しました。

【純資産の部】

⑦基本金 前年度比833,895千円 増

→第1号基本金は、九州国際看護大学における建物の空調設備更新等の固定資産取得による組み入れにより増加しました。
また、第4号基本金は、恒常的な資金の維持として計上した資金の組み入れにより増加しました。

⑧繰越収支差額 前年度比1,310,508千円 減

→基本金組入額及び有形固定資産の減価償却による減等により、繰越収支差額は減少しました。

4 財産目録

財産目録は、令和8年3月31日現在の基本財産、運用財産、負債額を示したものです。

①資産総額 48,190,057,949円

→内 基本財産 22,875,557,964円
運用財産 25,314,499,985円

②負債総額 3,094,716,118円

正味財産 45,095,341,831円

(単位：円)

科目	数量	金額
①資産		48,190,057,949
1 基本財産		22,875,557,964
(1) 土地（校舎敷地、運動場等）	205,651.48㎡	7,270,181,893
(2) 建物（校舎、体育館等）	104,561.51㎡	12,647,197,780
(3) 構築物		85,864,367
(4) 教育研究用機器備品	20,065点	946,681,586
(5) 管理用機器備品	320点	95,040,567
(6) 図書	400,321冊	1,698,518,685
(7) 車両		878,853
(8) 建設仮勘定		23,100,000
(9) その他（長期貸付金、差入保証金等）		108,094,233
2 運用財産		25,314,499,985
(1) 預金・現金		3,980,526,126
(2) 積立金（施設設備整備引当特定資産等）		20,962,469,959
(3) 有価証券（国債等）		56,797,546
(4) 未収入金		142,234,045
(5) 前払金		45,303,313
(6) 電話加入権		4,662,476
(7) 施設利用権		2
(8) ソフトウェア		121,986,737
(9) その他（短期貸付金、立替金）		519,781
②負債		3,094,716,118
1 固定負債（長期未払金、退職給与引当金）		1,745,385,225
2 流動負債（前受金、未払金、賞与引当金等）		1,349,330,893
借用財産		
1 土地（校舎敷地等）	66,534.16㎡	
2 建物（寄宿舎等）	3,619.34㎡	

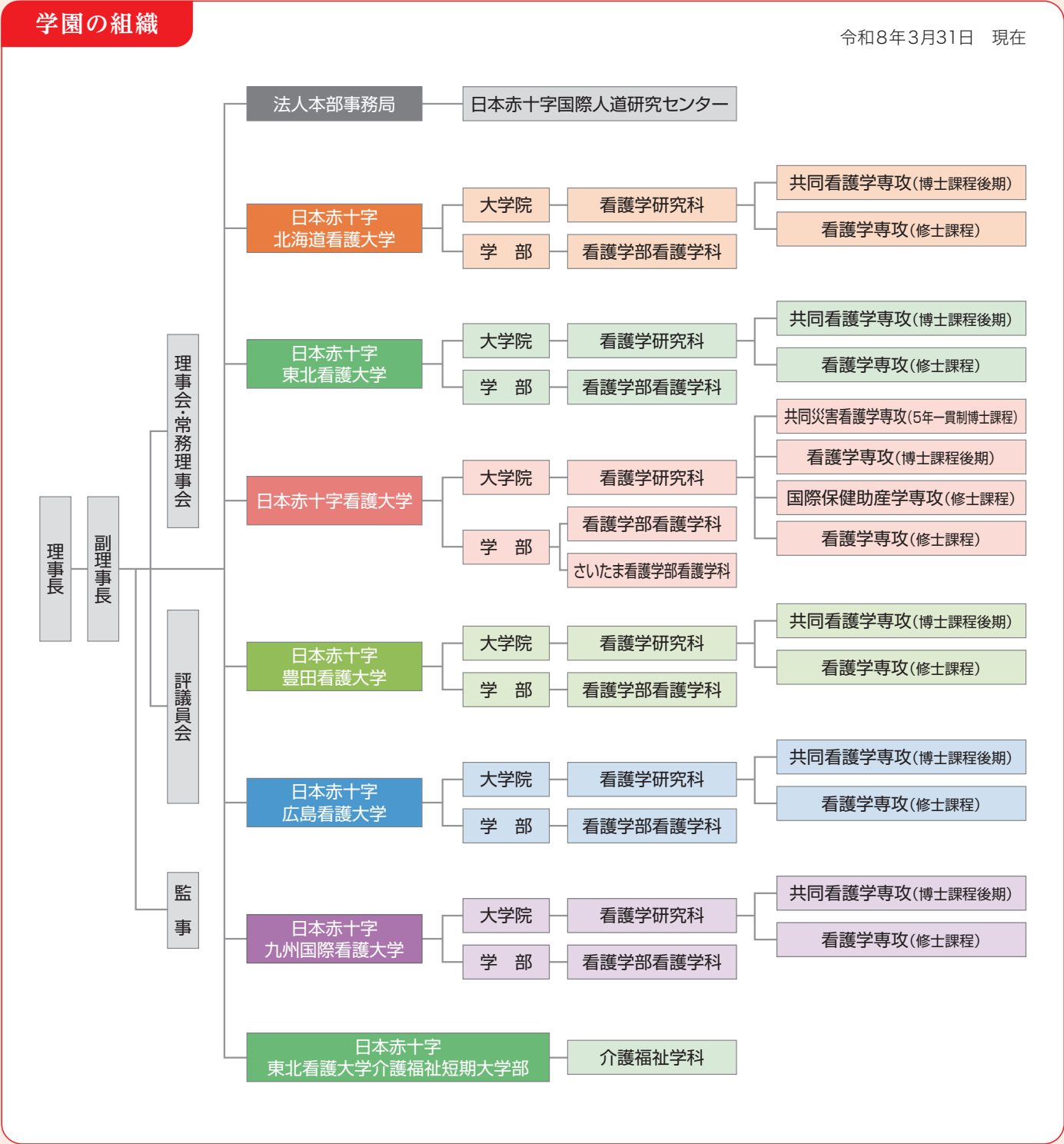
人道の理念に基づき、日本の看護・介護

学園の沿革

令和8年3月31日 現在

明治10年 (1877年)	博愛社を設立	
明治20年 (1887年)	博愛社から日本赤十字社に改称	
明治23年 (1890年)	日本赤十字社看護婦養成所を設立	
昭和21年 (1946年)	日本赤十字女子専門学校に昇格 財団法人日本赤十字女子専門学校を設立	
昭和29年 (1954年)	財団法人日本赤十字女子専門学校を学校法人日本赤十字女子短期大学に改組 日本赤十字女子短期大学を設立	
昭和41年 (1966年)	学校法人日本赤十字女子短期大学を学校法人日本赤十字学園に改称 日本赤十字女子短期大学を日本赤十字中央女子短期大学に改称 日本赤十字武蔵野女子短期大学看護学科を開設	
昭和50年 (1975年)	学校法人日本赤十字学園大阪高等看護学校を開設	
昭和53年 (1978年)	学校法人日本赤十字学園大阪高等看護学校を学校法人日本赤十字学園大阪看護専門学校に改称	
昭和61年 (1986年)	日本赤十字看護大学看護学部看護学科を開設	
昭和63年 (1988年)	日本赤十字中央女子短期大学を閉校	
平成元年 (1989年)	日本赤十字愛知女子短期大学看護学科を開設 学校法人日本赤十字学園大阪看護専門学校を閉校	
平成5年 (1993年)	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成7年 (1995年)	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士課程後期を開設	
平成8年 (1996年)	日本赤十字秋田短期大学看護学科・介護福祉学科を開設	
平成9年 (1997年)	日本赤十字武蔵野女子短期大学を日本赤十字武蔵野短期大学に改称 日本赤十字愛知女子短期大学を日本赤十字愛知短期大学に改称	
平成11年 (1999年)	日本赤十字北海道看護大学看護学部看護学科を開設	
平成12年 (2000年)	日本赤十字広島看護大学看護学部看護学科を開設	
平成13年 (2001年)	日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科を開設	
平成15年 (2003年)	日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成16年 (2004年)	日本赤十字豊田看護大学看護学部看護学科を開設 日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成17年 (2005年)	日本赤十字看護大学と日本赤十字武蔵野短期大学が統合	
平成18年 (2006年)	日本赤十字愛知短期大学を閉校	
平成19年 (2007年)	日本赤十字武蔵野短期大学を閉校 日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成21年 (2009年)	日本赤十字秋田看護大学看護学部看護学科を開設	
平成22年 (2010年)	日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成23年 (2011年)	日本赤十字秋田短期大学看護学科を閉科 日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成26年 (2014年)	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科共同災害看護学専攻博士課程を開設 (国公立5大学の共同教育課程)	
平成28年 (2016年)	日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 (赤十字5大学の共同教育課程)	
令和2年 (2020年)	日本赤十字看護大学さいたま看護学部看護学科を開設	
令和7年 (2025年)	日本赤十字秋田看護大学及び日本赤十字秋田短期大学を 日本赤十字東北看護大学及び日本赤十字東北看護大学介護福祉短期大学部に改称	

福祉を支える多くの人材を育成しています。



教職員の概要

令和7年5月1日 現在

(単位:人)

教授	准教授	講師	助教	助手	事務職	教職員合計
89	77	68	75	13	204	526

役員・評議員一覧

令和8年3月31日 現在

◆理事(10名)

理事長	富田 博樹	令和4年7月就任	日本赤十字社 特別顧問
副理事長	鈴木 俊彦	令和4年7月就任	日本赤十字社 副社長
常務理事	渡部 洋一	令和4年4月就任	日本赤十字社 医療事業推進本部長
	川上 潤子	令和6年4月就任	日本赤十字社 医療事業推進本部 副本部長兼看護部長
	松野 千郷	令和6年4月就任	学校法人日本赤十字学園 法人本部 事務局長
	守田 美奈子	令和7年6月就任	日本赤十字看護大学 学長
理事	安酸 史子	令和7年6月就任	日本赤十字北海道看護大学 学長
	池松 裕子	令和7年6月就任	日本赤十字九州国際看護大学 学長
	久保 公人	平成30年4月就任	尚美学園大学 名誉教授
	藤原 誠	令和4年4月就任	東京国立博物館長

◆監事(2名)

監事	岡原 宏一	令和2年4月就任	公認会計士岡原事務所 所長
	脇本 潤一	令和7年6月就任	日本赤十字社 監事補佐

◆評議員(14名)

原 玲子	日本赤十字東北看護大学・東北看護大学介護福祉短期大学部 学長
百瀬 由美子	日本赤十字豊田看護大学 学長
田村 由美	日本赤十字広島看護大学 学長
高柴 律子	日本赤十字社 医療事業推進本部 看護部 調整監
根本 とよ子	一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 理事
ソルステインソン みさえ	元日本赤十字社医療センター 看護副部長
西村 ユミ	東京都立大学 副学長
矢部 信栄	日本赤十字社全国支部事務局長会 会長(日本赤十字社東京都支部 事務局長)
中房 祐司	日本赤十字社病院長連盟 会長(福岡赤十字病院 院長)
岩崎 佳子	赤十字医療施設看護部長会 会長(長岡赤十字病院 看護部長)
勝又 浜子	公益財団法人日本看護協会 副会長
飯野 奈津子	医療福祉ジャーナリスト
小野 太一	政策研究大学院大学 教授
中島 正治	公益財団法人結核予防会 理事

◆会計監査人

EY新日本有限責任監査法人

理事会・常務理事会・評議員会の開催状況

理事会	第1回(参集・Web会議) 令和7年5月26日(月) 第3回(Web会議) 令和7年9月29日(月) 臨時(第5回)(Web会議) 令和8年2月20日(金)	第2回(参集・Web会議) 令和7年6月23日(月) 第4回(Web会議) 令和7年12月22日(月) 第6回(参集・Web会議) 令和8年3月23日(月)
常務理事会	第1回(Web会議) 令和7年4月9日(水) 第3回(Web会議) 令和7年6月9日(月) 第5回(Web会議) 令和7年10月6日(月) 第7回(Web会議) 令和8年2月2日(月)	第2回(Web会議) 令和7年5月14日(水) 第4回(Web会議) 令和7年9月8日(月) 第6回(Web会議) 令和7年12月8日(月) 第8回(Web会議) 令和8年3月2日(月)
評議員会	第1回(参集・Web会議) 令和7年6月23日(月) 第3回(参集・Web会議) 令和8年3月23日(月)	第2回(Web会議) 令和7年10月14日(火)

[各大学・短期大学の施設概要]

日本赤十字 北海道看護大学



住所 〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
 電話 0157-66-3311 URL <https://www.rchokkaido-cn.ac.jp/>
 施設面積 校地: 59,797m² / 校舎等: 16,993m²

日本赤十字 東北看護大学・同大学介護福祉短期大学部



住所 〒010-1493 秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3
 電話 018-829-4000 URL <https://www.rctohoku.ac.jp/>
 施設面積 校地: 43,599m² / 校舎等: 13,771m²

日本赤十字 看護大学 (広尾キャンパス)



住所 〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3
 電話 03-3409-0875 URL <https://www.redcross.ac.jp/>
 施設面積 校地: 15,864m² / 校舎等: 14,962m²

(大宮キャンパス)



住所 〒338-0001 埼玉県さいたま市中央区上落合8-7-19
 電話 048-799-2747 URL <https://www.redcross.ac.jp/saitama>
 施設面積 校地: 4,232m² / 校舎等: 5,953m²

日本赤十字 豊田看護大学



住所 〒471-8565 愛知県豊田市白山町七曲12-33
 電話 0565-36-5111 URL <https://www.rctoyota.ac.jp/>
 施設面積 校地: 19,710m² / 校舎等: 17,954m²

日本赤十字 広島看護大学



住所 〒738-0052 広島県廿日市市阿品台東1-2
 電話 0829-20-2800 URL <https://www.jrchcn.ac.jp/>
 施設面積 校地: 29,882m² / 校舎等: 19,438m²

日本赤十字 九州国際看護大学



住所 〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1-1
 電話 0940-35-7001 URL <https://www.jrckicn.ac.jp/>
 施設面積 校地: 34,456m² / 校舎等: 15,097m²





ご支援のお願い

日本赤十字社は140年にわたる看護師養成の歴史がありますが、医学・医療の高度化に応えられる質の高い看護職を育成するため、高等教育部門として学校法人日本赤十字学園を設立し、今日では、各地の6看護大学と6大学院、1短期大学において、赤十字の特色を生かし、毎年多くの優れた看護・介護の人材を社会に送り出しています。

看護、介護のプロフェッショナルを育成するためには、教育研究活動のための環境整備及び学生の修学支援体制の一層の充実が必要です。

皆様からのご支援を賜りたくお願い申し上げます。

税制上の優遇措置・申し込み方法についてはこちら

